

岡山畜産便り

岡山県畜産協会合併二十年記念特集号

2024 1



井原市美星町 譚 春艶さん(和牛繁殖)

も く じ

〔記念特集〕

岡山県畜産協会の合併二十年を迎えて 1

〔合併二十年記念座談会〕

「畜産学生の視点 若手生産者との未来に向けた対話」
～若手のアイデアが畜産業を変える～
(一社)岡山県畜産協会14

〔家畜衛生〕

家畜衛生対策について
岡山県農林水産部畜産課23

〔技術のページ〕

牛の分娩管理～畜産研究所の事例から～
農林水産総合センター畜産研究所 ...25

〔家保のページ〕

岡山家畜保健衛生所家畜病性鑑定課の近況紹介
岡山家畜保健衛生所27

〔県民局だより〕

県産飼料利用拡大研修会が開催されました！
美作県民局畜産第一班 29

〔共済フレッシュさん〕

二年目を迎えて
美作家畜診療所 堀間 大我 31

〔畜産現場の声〕

和牛繁殖農家を目指して
井原市美星町 譚 春艶 32

〔生乳検査NOW〕

生乳検査NOW：令和5年度上半期
(一社)岡山県畜産協会
生乳検査センター 33

謹 賀 新 年

安全・安心な肉用牛・肉豚・鶏卵の生産農場

岡山JA畜産グループ

新見市哲多町田淵1626番地の1

岡山JA畜産株式会社

代表取締役 菱川大二郎

新見市哲多町田淵1626番地1

有限会社 哲多和牛牧場

代表取締役 谷田 宏

謹 賀 新 年



岡山県産牛肉銘柄推進協議会

会 長 藤 原 雅 人

事務局 岡山市南区藤田556-126

全国農業協同組合連合会岡山県本部畜産部畜産販売課内

T E L (086) 296-5033 F A X (086) 296-5089



一般社団法人岡山県畜産協会
代表理事会長 柴田 範彦

岡山県畜産協会の 合併二十年を迎えて

新年あけましておめでとうございます。旧年中に賜りましたご厚情に深く感謝申し上げますとともに本年もより一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。今年は岡山県畜産会が肉畜価格安定基金協会と家畜畜産物衛生指導協会と合併し畜産協会となって20年という節目を迎えます。これまでの取組を振り返るとともに将来に向けてどう役割を果たすべきか考えを述べたいと思います。

今日まで畜産協会が畜産の指導機関として行政の補完的役割を果たしてきてことができましたことは、国、県、中央団体を始め会員である農業団体、市町村等関係者のご支援、ご協力の賜であり、心より感謝を申し上げます。

さて、この20年間を振り返りますと、社会経済はデフレからの脱却ができず、実質賃金も伸び悩み生活の豊かさが感じられない状況が続いて参りました。畜産は、海外悪性伝染病であるBSE、口蹄疫、高病原性鳥インフルエンザの発生により殺処分による甚大な損失と不安からの一時的な消費減少による販売価格の下落、トウモロコシのエタノール転用による配合飼料価格の高騰、TPPなど自由貿易の拡大による輸入増等幾多の経営危機を経験しましたが、生産者を始め関係者が一丸となって乗り越えてきました。

近年は、新型コロナウイルス感染症の拡大

による巣ごもり需要等で消費が拡大し販売価格も堅調で経営状況は良好でありました。しかし、一昨年からのロシアのウクライナ侵攻等により飼料、肥料、燃油など各種諸資材が高騰し、それに円安も加わり生産コストが大幅に上昇する一方、食料品などが度重なり値上げされたことで畜産物の消費量が減少し、肉用牛価格が下落、酪農ではコスト上昇分の価格への十分な転嫁が進まず新たな経営の危機に直面しています。

この間経営形態は、高齢化及び担い手不足により全ての畜種で戸数が減少する一方、酪農はパーラーやロボット搾乳等省力管理技術の普及により規模が拡大し、1戸当たり飼養頭数が42頭から81頭へ、繁殖経営は6頭から20頭へ、中小家畜でも規模が拡大し、家族経営と大規模経営の2極化が進んで参りました。

こういった中、協会は、経営技術指導、価格安定業務、家畜衛生指導を一体的に推進し経営の安定をサポートしてきました。また、時代が求めるニーズにも対応し、蒜山のジャージー酪農の発展のための搾乳体験等のコースを創設し観光客を集客する仕組み、畜産公共事業である家畜排せつ物ストックマネジメント事業の実施主体となって堆肥施設の長寿命化のための改修、女性の経営への参画を促進するための県外生産者との交流促進や研修会の開催、新規就農希望者

を養成するための和牛入門講座の開設などに取り組んできました。最近では、畜産クラスター事業の県窓口として機械の導入推進や労働力の省力管理のためのDX事業の他、安全な畜産物生産のための農場HACCP認証の取得支援も行って参りました。

しかし、現在の畜産危機は、飼料価格の値下がりが見通しが立っておりません。

協会としては、経営診断による資金計画や経費の見直し、水田や耕作放棄地を活用した牧草、トウモロコシの生産や耕畜連携による飼料用稲の生産確保による飼料費の削減、ワクチン接種による疾病の発生防止になど生産コストの削減や生産性の向上に一層取り組んでいく考えであります。

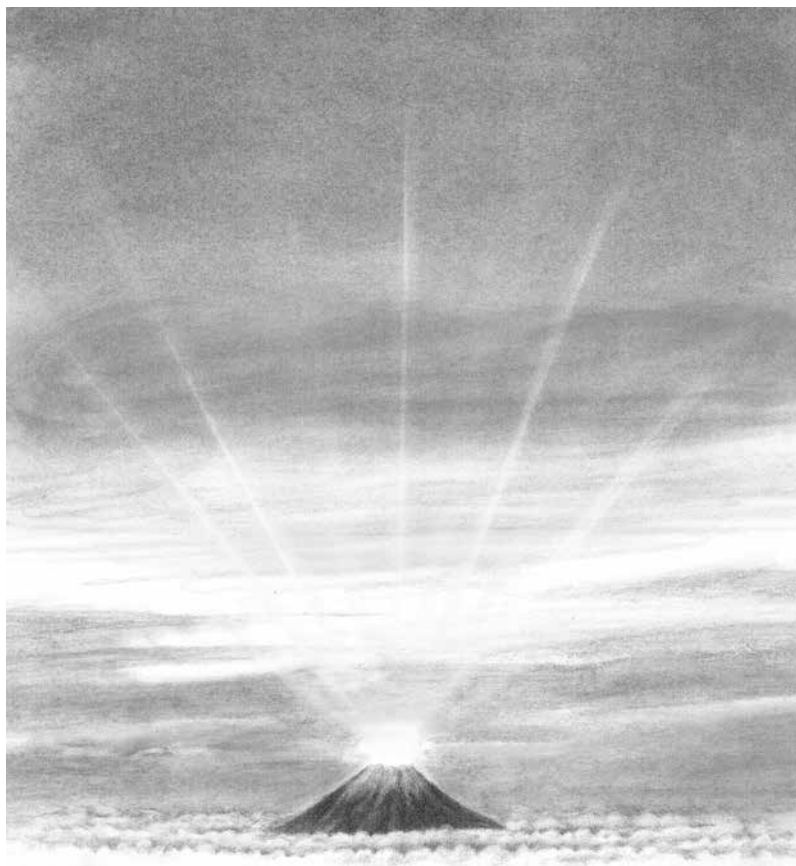
そして、将来に向けては、二極化してきている大規模経営、家族経営がそれぞれの強みを活かした経営が行えるような支援をしていく所存です。また、生産者のニーズを一早

く的確に把握し、真に必要な施策を行政や中央団体に提案していけるような組織に発展させていきたいと考えております。

世界は、コロナのように新しい感染症の流行、地球の温暖化による干ばつの拡大、勃発する戦争等により食料の生産や輸出量が減少し、お金を出しても輸入することが難しくなっています。国民に畜産物を安定的に供給するとともに農地の有効活用による国土を保全するためにも畜産を衰退させてはなりません。

合併20周年を期に、将来も生産者が夢の持てる経営が継続していけるよう役職員一丸となって努力する所存でありますので、皆様のご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。ご挨拶と致します。

最後になりましたが、本年が畜産にとって明るい展望が開ける素晴らしい年になりますようお祈り申し上げます。





岡山県知事
伊原木 隆太

岡山県畜産協会の 合併二十年を迎えて

このたびは岡山県畜産協会として、県内の畜産関係3団体（（社）岡山県畜産会、（社）岡山県肉畜価格安定基金協会、岡山県家畜畜産物衛生指導協会）が合併されて、ここに二十年目を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

そして、合併以来、畜産経営の安定的な発展と畜産の振興に寄与することを使命とした県内唯一の専門指導機関として、畜産農家における経営の維持発展に全力で取り組んでこられた数々のご功績に対しまして感謝と敬意を表します。

また、平素から県政の推進に格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行され従来の生活に戻りつつありますが、コロナ禍における消費低迷、海外情勢や円安による飼料価格の高騰をはじめとした生産コストの上昇などにより、畜産業は厳しい状況が続いております。

こうした中、県としては、令和3年度から4年間で県が取り組む重点戦略や施策を盛り込んだ「第3次晴れの国おかやま生き生きプラン」を策定し、「儲かる農林水産業加速化プログラム」に基づき、収益性の高い畜産業の実現に向け、地域ぐるみで生産基盤の強化に取り組むとともに、ゲノミック評価や受精卵移植技術などを活用した効率的な家畜改良、スマート農業の実装による生産性の向上と労働負担の軽減、地域の飼料資源の活用や飼料収穫作業などの外部化によるコスト低減を推進しています。また、衛生管理指導の徹底により、豚熱（CSF）やア

フリカ豚熱（ASF）をはじめとする家畜伝染病の発生防止や安全で高品質な畜産物の安定供給に努めております。

さらに、持続的な畜産経営を見据え、輸入飼料に頼らない国産粗飼料の基盤強化および耕畜連携による県産飼料の利用拡大を図るとともに、関係団体とも連携して県産畜産物の消費拡大に努めております。

そして、こうした取り組みを的確かつ効率的に、実りあるものとするためには、貴協会のご協力が必須であります。特に、畜産経営などへの支援活動、新規就農者の就農促進活動、家畜・畜産物衛生指導活動、畜産物の消費・普及活動、広報誌などによる情報提供、さらにこれまで培ってきた経営コンサルタント技術を活かした経営診断と幅広い畜産農家の支援活動には畜産農家、関係者からも非常に大きな信頼が寄せられているところであります。

どうか皆さま方には、畜産は、国民生活に欠かせない食料の安定供給はもとより中山間地域の農業農村の維持にも不可欠であるとの理念のもと、畜産農家における経営の維持発展に一層ご尽力いただき、本県畜産の発展に更なるお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

最後となりましたが、栄えある合併二十年目を迎えられた記念すべきこの年を一大契機として、貴協会の一層のご発展をご期待申し上げますと同時に、皆さま方のご健勝、ご活躍を心より祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。



岡山県農林水産部
畜産課長 森分 哲彦

年頭の挨拶

新年あけましておめでとうございます。

皆様におかれましては、新年を健やかにお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。そして、今年は岡山県畜産協会として、県内畜産関係3団体が合併されて二十年という節目を迎えられたことを心からお祝い申し上げます。

また、旧年中は県畜産行政の推進に格段のご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

さて、昨年を振り返りますと、豚熱が7月に兵庫県の養豚場で発生後、8月には佐賀県で発生し、九州7県全てがワクチン接種推奨地域に指定されました。また、野生イノシシでは中国・四国地方で本県と愛媛県を除くすべての県で感染が確認され、県内へのウイルスの侵入が大変危惧されているところでございます。高病原性鳥インフルエンザにつきましても、今シーズンに入り県内外の野鳥等での感染確認が相次ぎ、その後、11月に佐賀県の養鶏場で今季1例目となる発生を確認するなど予断を許さない状況となっております。これらの家畜伝染病の発生予防には努めておりますが、発生時には関係者の皆様方のご理解・ご協力が必要でありますので、どうぞよろしくお願いいたします。

また、昨年5月に新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行され消費者の行動制限が緩和されました。しかしながら、コロナ禍における消費低迷、海外情勢や円安による飼料価格の高騰をはじめとした生産コストの上昇などにより、畜産業にとっては非常に厳しい一年でありました。とりわけ、輸入飼料価格高騰と子牛の販売価格の下落により、畜産経営への影響が深刻となっております。

このような中、県では新型コロナウイルス感染

症対応地方創生臨時交付金及び物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を活用した「飼料価格高騰緊急対策事業」及び「酪農経営維持緊急対策事業」により、畜産農家への負担軽減を図っているところですが、飼料価格の高止まりは沈静化の兆しが見えず、国産飼料の利用拡大が喫緊の課題となっております。

このため、県としては耕畜連携の取り組みを強化しているところです。具体的には、令和4年度末から庁内において耕畜連携の推進及び情報共有を強化するため、耕畜連携推進会議を設置し、需要量や県内のマッチング事例の調査などを実施しており、県内における県産飼料の生産・利用拡大に取り組んでいます。

さらに、収益性の高い畜産業の実現に向けて、地域ぐるみで生産基盤強化に取り組むとともに、ゲノミック評価や受精卵移植技術などを活用した効率的な家畜改良、スマート農業の実装による生産性の向上と労働負荷軽減、地域の飼料資源の活用や飼料収穫作業などの外部化によるコスト低減を推進するのと併せて、県産畜産物の需要拡大のため、「おかやま和牛肉」、「岡山市場発F1牛肉清麻呂」及び「ジャージー牛乳・乳製品」を始めとする県産畜産物のブランド化や消費拡大対策を引き続き推進してまいります。

こうした取組は生産者、関係団体、行政が連携して取り組んでこそ効果が表れるものであり、皆さま方には一層のご協力とご支援をお願いいたします。

最後になりますが、令和6年は辰年です。厳しき続く畜産情勢の中にあっても、昇り竜のように力強く飛躍する年になりますよう、皆様のご健康とご多幸を心から祈念申し上げまして、年頭の挨拶といたします。



公益社団法人中央畜産会
会 長 森山 裕

岡山県畜産協会の 合併二十年を迎えて

この度、岡山県畜産協会の発足20年の節目を迎えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。

さて、貴会が平成15年4月に発足されて以来、岡山県内の畜産生産者等への支援活動、新規就農者の就農促進活動、家畜畜産物の衛生指導活動、さらには畜産物の消費・普及活動等に取り組まれてきたことにつきまして、心より敬意を表する次第です。

貴会発足以前は、岡山県畜産会、岡山県肉畜価格安定基金協会、岡山県家畜畜産物衛生指導協会それぞれが専門性の高い業務を実施しておりましたが、畜産を取り巻く環境が大きく変化する中、将来あるべき姿を模索した結果、県内畜産3団体を再編統合されたことは、関係者皆様のご努力と熱意がなければ成し遂げられなかったと思われます。

団体再編統合に際しては、平成10年より5年間にわたる協議を重ねたとのことですが、その間、平成13年に国内初のBSE（牛海綿状脳症）が発生し、我が国の畜産にとりまして未曾有の危機を経験することとなりました。

それぞれの団体におかれましても関連対策事業の実施、牛トレーサビリティシステム確立のため県内飼養牛全頭への耳標装着、消費者への信頼回復等の様々な業務を実施しなければならない状況にあり、大変なご苦勞をされたかと思えます。

それゆえに、県内畜産生産者に対してそれぞれの団体が持つサービスをバランスよく、きめ細やかに実施することの出来る体制構築を目指して、団体の再編統合が進められたことと思います。

団体再編統合による成果は、県内畜産経営のレベルを全国トップクラスまで引き上げ、本会が主催する全国優良畜産経営管理技術発表会では、平成15年から延べ12事例を出品していただき、このうち2事例は天皇杯を受賞しております。また、高度な家畜衛生管理を目指す農場HACCP認証農場の認証取得についても積極的に推進されています。

さらに、後継者育成や酪農ヘルパーなどの支援組織の構築など様々な活動に着手することで、岡山県における畜産振興において今や無くてはならない重要な支援組織として位置付けられています。

この様に貴会が実施してきた長年にわたる畜産生産者に寄り添った支援活動は、県内の多くの畜産生産者の方々から厚い信頼を得ることができ、貴会にとりましても大きな財産となっていると確信しています。

さて、世界的に「ポストコロナ」という新たな時代を迎える中、ウクライナ問題の長期化は、穀物、原油の国際価格の高騰、さらには円安の進行で物価上昇が続いています。この影響により、我が国の畜産も大きな転換期を向かえることとなり、海外依存の生産構造から脱却して、国内の食料供給基盤を確立しなければならない状況になりました。

この基盤確立には、地域農業や農村機能を十分活用しなければならないことから、農村や地域農業を守らなくてはなりません。その役割を担っているのは家族経営であり、特に畜産生産者の存在は大きなものであります。この家族経営を守っていくことが、私ども中央畜産会と地方畜産会組織に課せられた大きな使命であります。

岡山県におきましても、家族経営の方々が安心して畜産物の生産を続けていただくためにも、貴会がこれまで実施してきた地域に密着した畜産生産者に対する支援活動等は継続して行うよう切に願うところです。また、平成24年4月に一般社団法人に移行されたことで、畜産生産者のみならず県民の皆様に対して、県内の畜産業の理解醸成を図り、畜産生産者と県民の皆様との架け橋となるよう期待しているところです。

結びに、貴会が発足20年を契機に、これまでの歴史と実績を礎に更なる岡山県の畜産の発展を遂げられますことを心からお祈り申し上げ、祝辞といたします。



岡山県農業協同組合中央会
代表理事会長 青江 伯夫

合併二十年目を迎えてのお祝い

このたびは、一般社団法人岡山県畜産協会が畜産関係3団体（（社）岡山県畜産会、（社）岡山県肉畜価格安定基金協会、（社）岡山県家畜畜産物衛生指導協会）の合併により平成15年に発足し、ここに20年目を迎えられましたこと、心よりお慶び申し上げます。

貴会が県内唯一の専門指導機関として、本県における畜産振興と畜産農家の安定的な経営の発展に寄与されてまいりましたご功績に対しまして、改めて敬意と感謝の意を表します。

さて、わが国の畜産をめぐるのは、飼料をはじめとする生産資材価格の高止まりに直面するなか、牛枝肉価格の低迷や肉用子牛価格の下落、生乳需要の低迷などが重なり、生産現場は全国的に営農継続が危ぶまれるほどの甚大な影響を受けています。

また、依然として生産資材価格の高止まりは収束を見通すことができず、国産飼料の増産や国内資源の利用拡大が急務となるほか、豚熱や鳥インフルエンザなど家畜伝染病の脅威への徹底した対応が求められています。

一方、政府・与党においては、今後の農政の基本的な方向性を示す「食料・農業・農村基本法」の制定以来初となる改正をすすめており、10年先、20年先の農政の方向性を決める、まさに大転換期を迎えております。

こうした畜産をめぐる情勢ではありますが、本県の畜産業に目を向けますと、岡山県は中国・四国地区でもトップの畜産物の産出額を誇り、全国でも有数の畜産県であります。

品目別に見ても和牛改良のルーツといわれる千屋牛や勝英地区特産の黒大豆を与えて育成されたなぎビーフ、飼育頭数日本一を誇る蒜山高原のジャージー牛、厳格な衛生基準をクリアして育てられたピーチポークなど、魅力的で全国

に誇ることができる畜産物がたくさんあります。

J Aグループ岡山では、第35回岡山県J A大会において、「持続可能で、強く元気な岡山県農業の実現」「豊かで、元気な地域社会の実現」「『食』と『農』を基軸として地域に根ざした『協同組合』の役割発揮」の3つの将来ビジョンを決議し、その実現に向けて各種事業に鋭意取り組んでおります。

J Aグループといたしましても、食料安全保障の強化に向けて、輸入依存からの脱却や耕畜連携の推進も含め、さらなる万全な対策により、生産現場における経営の安定をはかり、営農継続意欲を確保する必要があると考えております。

基本法の改正にあたっては、J Aグループにおいても、食料安全保障の強化、適正な価格形成の実現と国民理解の醸成、農業の持続的な発展と農村の振興等、生産現場からの積み上げによる具体的施策が反映されるよう要請活動を展開しているところであります。

なかでも、持続可能な岡山県農業の実現にあたっては、次世代を担う若者たちに対し、農業に目を向けてもらい「将来は農業に従事しよう!」と自信をもっていえるような、将来展望のもてる産業へと成長させていかなければなりません。

J Aグループでは、この危機的な状況をチャンスととらえ、難局を乗り越えるため関係機関と連携しながら、我が国そして本県農畜産業が力強く発展するよう、グループ一丸となって取り組んでまいり所存であります。

むすびにあたり、合併20年目を契機といたしまして、貴会の今後一層のご活躍とともに、本県畜産経営の安定的な発展と畜産振興へ寄与されることをご期待申しあげ、お祝いのご挨拶といたします。



笠岡市
東山 基

岡山県畜産協会 合併二十年に寄せて

かつて記憶に無い暑い夏が長々と続き、やっと秋の到来かと思いきや、いきなりの寒気が南下する冬の到来に……。一体どんな形で春を迎える事になるのやら。地球規模での気候変動はとてつもない力で人類に襲いかかり来る感がある。表面的にようやく収まった4年に及ぶパンデミックの中で、世界的には経済格差は広がり地政学的覇権主義の生み出すひずみも又再び分断構造を拡大する様相を呈する。中でも悲惨な貧困や領土拡大の暴力は地域を越え世界的規模で社会の政治経済に影響を及ぼし人々の生活を圧迫し、生命をも怯えさせる。それは遠い国の出来事としていた日本の畜産業に身を置く私達にも深刻な問題として突き付けられた。かつて未曾有の酪農危機と言われる時代を何度も味わって来たが、主な要因は生乳の価格形成システムの脆弱性に起因すると思われるが、昨今の世界情勢の中ではますます複雑な要因がからみ単純な解決は望めない。責任転嫁や要因を糊塗する事なく、今や国民の主食であるにもかかわらず将来的にはその生産力が危惧されている米穀に倍する需要がある牛乳乳製品は、まさに国民の生命産業としての位置付けを明確にし、極めて強い食料政策の下に置く必要性を感じる。遅々として進まない食料の国産化に輸入穀物の他国化もさる事ながら、限られた国からの粗飼料輸入の現実への不安定さを払拭できない。日本の農業政策は水田中心に国土保全に係るものであったが、今ようやく米・麦・大豆等のバランスが論じられようとしているが充分納得しかねる施策に思えてならない。国民の胃袋を満たす為に必要な畜産業の位置付けに寄り添った土地政策を考えるべきであり、畜産関係者が一同に会する“畜産協会”

でもそのアプローチができるのではないかと期待してしまう。中小家族経営からメガ・ギガファームが混在し、共存を余儀なくされる中で多様化する経営環境に格差は広がり続け、立地条件を選べない産業の若さ、難しさを物語るものである。生乳需要と供給の課題は、起りうるバランスのギャップにある事はまちがいの無い所であり、バター・脱粉にチーズといった保存性のある乳製品と輸入調整によって行われてきたが、国際的な自由市場主義の下、個別品目の自国ファーストとならないジレンマもある。消費者の観点からは、安価を求めるPB商品が拡大する一方で自社ブランドの影は薄くなり全国での生乳需給調整は難しくなった。さらにオーガニックやA2牛乳など差別化による高価格帯の牛乳も課題が多い。少子高齢化の中で日本の飲む牛乳文化をどう維持するか……。そう言った意味では生産者は無論の事、構成団体・上部団体・指導機関の役職員関係者も旧態依然としていてはこの産業はますます衰弱を続けるのではと心配する。岡山県畜産協会におかれましても3団体合併時にかかげられた新たな県畜産業の構築と発展を期する精神に立ちかえり、合併当時以上と思える社会変動の大きい困難な課題に立ち向かっていただきたいと大いに期待するところである。20年間に渡り集積された情報やデータに基づく分析・研究・技術は我々生産者にとってこの上ない貴重なものとして、現場への普及を関係機関と共に努めて頂きたいと思います。畜産協会を支えられた歴代会長を始め、すべての皆様に敬意を表し深く感謝申し上げますと共に、若い畜産業従事者が抱く夢と希望の光を注ぎ続ける存在として今後の事業展開をお願い申し上げます。



真庭市蒜山
石賀 博和

私と岡山県畜産協会との 出会い

私は、昭和50年に20歳から和牛繁殖を始めました。当時は、稲作、葉タバコ、2頭の和牛で、機械は7馬力の耕運機だけでした。牛が好きで学校にも行き、牛飼いになるのが夢でした。今日に至るまでは数多くの難題もいくつも有り、畜産協会をはじめ農協、県民局の皆様や地域の畜産関係者や仲間の人々に支えてもらって今があると思っています。

経営は休耕田を借りて飼料作物を作り、夏は牛を山林放牧して夏山冬里方式のまねごとをしていました。

平成5年に負債整理資金を借りるため資金説明を自分で説明しましたところ、本来なら農協が説明するが本人が来て説明したのはあなたが初めてだと驚かれたことが印象に残っています。それがよかったのかどうか資金を融通していただきありがたかったです。

資金を借りて経営は徐々に回復していきました。また、牛飼いをやっているなかで人間関係が広まりました。真庭地区和牛研究会の発足にもたずさわり、牛の勉強会や夫婦同伴の視察研修を開いたえい、会員と会員外のつめ切り、除角等を仲間と協力してやっていました。

そんな中、平成16年には協会や局から、全国優良畜産経営管理技術発表会に出てみてたらと言われ、出ることになりました。その頃、息子の始が牛飼いを手伝ってくれていたもので、夫婦で東京に行って、思いつくまに発表したら、あれよあれよという間に思いも

せぬ、農林水産大臣賞を受賞することになり、翌年には天皇杯という思いもせぬ賞をいただくことになり、びっくりするとともに、ありがたかったですが、その賞には相応しくないと思っていた時、初老の人が、今までお世話になった方々に感謝して、その人達のために尽くしたらいいのではないかとわれ、少し気分が楽になりました。

天皇杯を受賞して人生が変わりました。いろいろな人から声をかけられるようになり、知り合いも多くでき、県内外の人脈が増えました。

発表会への参加を押してくれた畜産協会を中心に多くの畜産関係者の支えがあればこそ今の自分です。

私は、牛飼いになりたくて学校に行きましたから希望はかないました。この人生に満足しています。

この50年、良いこともあれば悪いことも。悪いことがあれば良いこともありました。そろそろ息子に経営を譲り、息子を助けながら牛飼いは続けたいと思います。

いろいろな人の助けがあつたから、今があります。感謝の気持ちで、これからも更に頑張って、地域の仲間と友に畜産を盛り上げたいと思っています。

今後も、人のために尽くしていきたい。畜産協会も畜産振興のため、畜産農家のため頑張してほしい。今後の活躍に大いに期待しております。



一般社団法人岡山県畜産協会
本松 秀敏

岡山県畜産協会合併 二十年を迎えて思うこと

20年前の平成14年度、岡山県畜産会、岡山県家畜畜産物衛生指導協会、岡山県肉畜価格安定基金協会の3団体統合に向けて、岡山県の指導を受けながら、諸規程原案の作成や組織統合委員会の準備、統合に関する協定書原案の作成、合併調印式の準備、臨時役員会や総会の開催、法人登記等々、多忙を極めた日々が懐かしく思い出されます。

あれから20年、スタート時は多少ごちなさもありましたが、今では完全に一つの組織となり、各部連携を密にしてそれぞれの業務に取り組んでいます。

さて、協会合併後の20年間、畜産の世界の内外では実に様々な事が起こり、畜産経営に多大な影響を与えました。

まず経営外の出来事として、国家間、地域間の貿易協定が次々発効したことを上げたいと思います。平成30年以降立て続けにTPP11、日EU経済連携協定、日米貿易協定が発効し、関税の引き下げに伴い、競合分野で畜産物価格が低下しました。

また、グローバル経済下の人流の増加は、海外から悪性伝染病を流入させ、人、家畜ともに大きな影響を受けました。特に平成22年の口蹄疫は、生産農家、生産地に甚大な被害を与えただけでなく、畜産物価格の暴落を招きました。令和元年末からの新型コロナウイルス感染症は、外食産業の消費を著しく停滞させ、畜産物価格の低下を招きました。

さらに度重なる高病原性鳥インフルエンザの発生は、発生農家に打撃を与えただけでなく、鶏卵の品薄による価格高騰を招きました。

一方、地球温暖化に伴う気象変動は、飼料原料の生産量を不安定にし、為替相場の変動やチャイナリスク、戦争リスクまで加わって飼料価格を不安定にしています。

当協会ではこのような外部環境の変化に対し、

価格安定対策、経営資金の融資時や事後の指導等、様々な事業に取り組み、畜産経営を支えてきました。

他方、畜産経営内部に目を移すと、20年間で農家戸数は減少し、逆に1戸当たりの飼養規模は拡大の一途をたどりました。規模拡大が可能になったのは、飼養管理施設・機械の進化と飼養管理技術の高度化の恩恵ですが、配合飼料向け輸入原料の関税撤廃による安価な飼料供給が、土地から遊離した飼養規模拡大を可能にしたことを忘れてはなりません。

この土地から遊離した飼養規模拡大こそが、畜産経営の外部環境変化に対する脆弱性をもたらしたのではないのでしょうか。

食料の安定供給のため、飼養規模の拡大、生産拡大は必要ですが、飼料の海外依存度が高いままの規模拡大は、飼料価格が高騰する度に経営危機を招きました。その都度「自給率の高い足腰の強い経営」が求められ、当協会でも経営データの分析結果を示して飼料自給の大切さを訴えてきました。しかし畜産経営の外部環境変化に対する脆弱性は20年間変わることはなく、長年続けてきた輸入飼料に依存した経営手法の転換は、容易なことではないと痛感しています。

食料の安定供給と、外的環境変化に対する脆弱性を内包した畜産経営の安定の双方を実現させることは極めて難しい課題です。しかし、当協会には長年蓄積してきた経営者の経営行動も含むデータがあります。また46道府県のネットワークもあります。これらの蓄積されたデータとネットワークを活用し、この難題の解決に向けて、畜産経営者や関係者に情報提供し、共に考え、共に行動することは、我々の組織の大切な役割です。

解決のヒントは、畜産農家の取組の中にこそあります。それらを参考にして畜産協会らしい取り組みで足腰の強い畜産経営の実現に寄与できたらと、20年の節目に思っています。

一般社団法人岡山県畜産協会の歩み

年度	月	企画管理、経営指導部	家畜衛生部
H15	4	畜産関係3団体（社岡山県畜産会、社岡山県肉畜価格安定基金協会、社岡山県家畜産物衛生指導協会）が合併し社岡山県畜産協会が発足 磨屋町の農業会館に事務所を置き、総務部、経営指導部、価格安定部、生乳検査部を設けた。会長池田隆政、副会長本松允之、専務内藤昭章、事務局長池田勉	生乳検査業務をおかやま酪農農業協同組合から受託
	10		岡山県家畜衛生管理センター（BSE 検査死亡牛の集荷採材施設）の運営を県から受託
16		推薦した全国優良畜産経営管理技術発表会で石賀博和、恵子夫妻が農林水産大臣賞を受賞、天皇杯も受賞（H17.11） 和牛入門講座を開始	
17	11	第12回ホルスタイン全共栃木県大会への応援	
18	1		県内初の鳥インフルエンザ発生の防疫措置に職員を派遣（高梁市）
	9	和牛の林間放牧研修会を新見市で開催	
19	4	蒜山地域活性化人材活用モデル事業に取り組む（見学・体験コースのメニュー化、酪農ガイド養成）	
	6	第1回おかやまフォーベルネット総会、研修会を開催（総合畜産センター）	
	10	全国和牛能力共進会鳥取大会への応援	
	12	JAグループで県産米と牛乳の消費拡大に向けた街頭宣伝を実施（米価値下がりや飼料価格の値上がりによる厳しい酪農経営への対応）	
20	4	飼料、生活資材の高騰を受け、経営相談窓口を設置	
	5	県畜産課と協会を中心に酪農経営支援チームを結成し経営支援強化活動を開始（おからく農協、農業共済、畜産センター、家畜保健衛生所、県民局、酪大）	
	9	県、全農、農協、農済、協会で岡山和牛子牛資質向上対策協議会を設立し、「おかやま四ツ☆子牛」の名称と基準を定め認定を開始	
21	4	畜産課と河川敷を活用！低コスト自給飼料確保対策事業に取り組む	口蹄疫等海外悪性伝染病の発生時の損失を補償するため家畜防疫互助基金等造成事業に取り組む（H21～）
	10		生乳検査の広域化により畜産協会は、中国生乳販連から広島県を除く地域の生乳検査を受託
	11	推薦した全国優良畜産経営管理技術発表会で松崎隆、まり子夫妻が農林水産大臣賞を受賞、天皇杯も受賞（H22.11）	
22	4		中国地区生乳検査機関として中国5県の生乳検査業務を開始
	5		協会職員が宮崎県の口蹄疫防疫に応援派遣（宮崎県で口蹄疫が大発生、牛豚297千頭殺処分）
	10		生乳検査センターが生乳検査制度管理の認証を取得
23	12	岡山県農地開発公社の解散を受け、協会が畜産公共事業の実施主体として家畜排せつ物処理施設ストックマネジメント事業で堆肥処理施設の改修工事を実施（奈義有機センターH23～24）	生乳検査センターのコンビフォス（乳成分・細胞数検査機器）導入に助成
24	4	公益法人制度改革により一般社団法人岡山県畜産協会に改組 5部から4部体制に組織変更（家畜衛生部と生乳検査部を統合し家畜衛生部）	
	7		農場HACCPの認証取得指導を開始（酪農大学校）
	9		衛生管理区域区分の立入禁止コーンの作成配布（1250農場）
	10	全国和牛能力共進会長崎大会への応援	サルモネラ対策として石灰塗布機を導入し貸し出し開始
	3	推薦した全国優良畜産経営管理技術発表会で（有）哲多和牛牧場が農林水産大臣賞を受賞	
	3	鳥取、島根、愛媛、岡山の畜産女性県外交流会を総社市のサンロード吉備路で開催	

25	8 8 9 12	知事、県議会議長に対してＪＡグループからＴＰＰ参加反対要請 異業種交流会の開催（ピュアリティまきび） 女性経営者発展支援事業に係る異業種交流会、牧場体験ツアー検討会（美作三湯女将の会、岡山観光連盟）	農場立入者の記録用ボードの配布（全農場） 岡山県馬事畜産振興協議会冠レースを高知競馬場で初開催（福山競馬の中止に伴い）
26	7 11 1	家畜排せつ物処理施設ストックマネジメント事業（公共）の事業主体として吉備中央町エコセンターの改修を実施 推薦した第１回全国自給飼料コンクールで上森亨・叔恵夫妻が会長賞を受賞 全国畜産縦断いきいきネットワーク・おかやまフォーベルネット合同研修会を蒜山で開催（北海道、神奈川、大分、岡山）	野生獣（イノシシ・シカ）の衛生調査に取り組む（H26～30） 牛白血病対策（検査）開始 県内大規模農場での鳥インフルエンザ防疫に職員を派遣（笠岡市）
27	4 10 12 3	日本中央競馬会畜産振興事業公募採択「和牛を育てよう！チャレンジ支援事業 H27～29」 ４部から３部体制に組織変更（経営指導部と価格安定部を統合し経営支援部） 第１３回ホルスタイン全共北海道大会への応援 推薦した全国優良畜産経営管理技術発表会で（株）竹信牧場が農林水産大臣賞を受賞 ＴＰＰ合意による影響に係る座談会を開催	生乳検査センターのバクトスキャン（細菌検査機器）導入に助成
28	4 8	畜産クラスター機械導入事業の県窓口団体として取組推進 おかやまフォーベルネット１０周年記念研修会を開催	畜産クラスター機械導入事業の県窓口団体として取組推進 おかやまフォーベルネット１０周年記念研修会を開催
29	1 9 11 12	第１２回和牛全共宮城大会への応援 推薦した全国優良畜産経営管理技術発表会で農事組合法人伍協牧場が農林水産大臣賞を受賞 中四国養豚セミナーを開催 北海道、大分県、神奈川県、岡山県の畜産女性の交流会を開催	農場ＨＡＣＣＰの県内初の認証取得（酪農大學第２牧場）
30	11 4 11 11 3	畜産経営指導従事者研修（中堅部門別研修）を美作市で開催（全国の県協会１５名参加） 日本中央競馬会畜産振興事業公募採択「和牛の担い手高度化支援強化事業 H 30～R 2」 肉用牛肥育経営安定特別対策事業の補填金単価算定方法の改善を求める要望活動（農林水産省生産局、農畜産業振興事業団） 推薦した全国優良畜産経営管理技術発表会で（有）安富牧場が農林水産大臣賞を受賞	農場ＨＡＣＣＰの畜産農家の県内初認証取得、（有）安富牧場
R1	2 3 9		肉用牛農家初の農場ＨＡＣＣＰ認証取得、（有）石岡牧場 養鶏農家初の農場ＨＡＣＣＰ認証取得、（株）めぐみ 農業高校初の GAP チャレンジシステム取り組み農場に認定
R2	4	新型コロナウイルス感染症の緊急事態宣言発出に伴い感染対策マニュアルを作成し注意喚起	
R3	3 4 12	肉用牛入門講座開設２０周年受入農家を表彰 家族経営における畜産ＤＸ推進事業に取り組む（R3～5）	県内最大規模農場での鳥インフルエンザ防疫に職員を派遣（美作市）
R4	4 8 10 11 3	真庭支部を廃止（真庭と津山家畜保健衛生所の統合に伴い） ＹｏｕＴｕｂｅチャンネルを開設 県知事への飼料高騰支援要請 飼料価格高騰に伴う酪農及び繁殖経営の経営診断結果を発表 第１２回和牛全共鹿児島大会への応援 和牛シンポジウムを新型コロナの影響で４年ぶりに全面開催（畜産危機を乗り越えるために）	県内３例続発の鳥インフルエンザ防疫に職員を派遣（倉敷市） 岡山県馬事畜産振興協議会冠レースを佐賀競馬場で初開催

岡山県畜産協会の主な事業

1 経営診断事業



経営診断の要望があった農家に対し、関係機関と連携し、経営分析を行うとともに、改善点を把握、その後飼養管理等技術部門の指導を行っています。特に、本会では経営支援指導チームを結成し、経営上緊急性の高い農家の重点改善指導及びフォローアップ指導による農家支援を実施しています。また、融資が必要な場合は、金融機関とともに経営計画の作成や融資後の支援策の検討、借入後のフォローアップ指導を行っています。

2 おかやまフォーベルネット



「おかやまフォーベルネット」では、畜産に携わっている県内の女性が、畜種の枠を越えて集い、仲間づくりと、将来への展望が持てる畜産の実現を目指し、日々活動しています。情報交換を図りながらスキルアップ

プ・モチベーションアップのため作業安全研修や衛生対策等の研修会、消費者交流会や異業種交流会等の活動を行っています。

3 自給飼料指導事業



畜産経営の低コスト化を図るためには飼料費の削減が一番効率的であることから稲WC S等の県産飼料の生産・利用を推進するため、畜産農家・耕種農家を対象とした研修や、耕畜の支援機関の連携推進を行っています。また、コントラクターの育成・強化を図り、飼料生産に係る作業の効率化及び低コスト化を推進するとともに、マネージャー・オペレーターの養成、経営管理・技術習得等各種研修会の実施並びにコントラクター相互の情報交換等を通じて畜産農家の自給率向上に資することを目的に設立された「岡山県コントラクター協議会」の事務局を担っており、技術研修、情報交換、補助事業の活用を行っています。

4 指導体制の構築（酪農経営支援チーム、和牛子牛資質向上対策協議会）



本県酪農の生産基盤強化を図るため、関係機関で構成する岡山県酪農経営支援チームを設置し、本会が事務局となり、畜産関係団体や県等関係機関と連携して、生産性の向上等による収益性向上対策や、飼料自給率の向上等によるコスト低減対策を効率的に推進しています。また、農家の経営診断を実施し、飼養管理指導と一体化した指導を実施しています。



また岡山和牛子牛の生産者や関係者の相互理解と協力のもと、子牛資質向上を目指し、肥育農家が求める発育良好な子牛生産を行うため、全農、農協等関係団体で構成された「岡山県和牛子牛資質向上対策協議会」において、岡山和牛子牛の生産及び育成マニュアルの作成や岡山和牛子牛の生産及び哺育・育成技術に係る研究会・研修会を開催するとともに、和牛子牛市場において「おかやま四ツ☆子牛」認定作業を行い、併せて、関係機関で構成された「地域部会」において地域巡回指導を実施しています。

5 和牛担い手育成

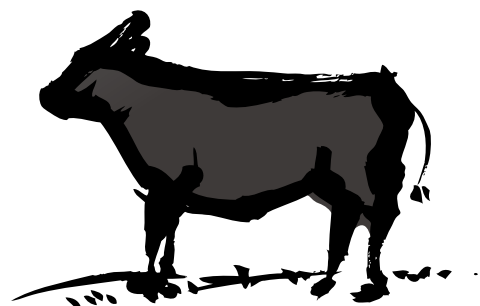


和牛繁殖経営に新規で参入を希望する方などを対象に、和牛繁殖経営を始めるに当たっての基礎的な知識や技術を習得する場として、和牛に関する基礎講座や牧場体験実習、子牛市場視察等を行う「和牛入門講座」を開講しています。また、入門講座の受講生を対象にスキルアップのための「和牛未来塾」を行うとともに、和牛の生産意欲を高めるとともに、繁殖及び哺育育成技術の向上による生産性の高い農家を育成し、和牛経営の安定的発展に資するための「和牛シンポジウム」を開催しています。

6 農場 HACCP 認証支援事業



生産される畜産物の安全性の確保及び生産性の向上を図るため、関係機関と連携しながら、農場 HACCP 認証取得のための構築指導や認証取得後のフォローアップ指導を行っています。令和5年12月現在、県内では、酪農2農場、肉用牛1農場、採卵鶏1農場の計5農場において認証を取得済で、安心安全で安定的な畜産物の供給に寄与しています。



〔合併二十年記念座談会〕

「畜産学生の視点 若手生産者との未来に向けた対話」

～若手のアイデアが畜産業を変える～

一般社団法人岡山県畜産協会

本県畜産業は全国と同様、高齢化や担い手不足等により、畜産農家戸数は年を追うごとに減少の一途をたどり、生産基盤が脆弱化しています。さらに、様々な要因から物価や飼料等が高騰し、再生産が困難な状況に直面しています。このように、畜産業のみならず社会が劇的に変化しており、未来に向けた新たな課題が山積している一方で、現在の危機的状況の中にビジネスチャンスが広がっているのも事実です。

そこで、畜産の新たな世代である県内の畜産学生が社会の中における畜産業の役割を理解し、若手の畜産業生産者の経験から将来への道標を得るため、学生と生産者が共に畜産の未来について考え、畜産業の働き方や消費者へのPRなど再生産可能な畜産業について意見交換を行いました。

意見交換出席者（敬称略）

中田 涼香（県立高松農業高等学校）
神田 陸（県立瀬戸南高等学校）
藤井 洸希（中国四国酪農大学校）
安富 照人（岡山市、酪農家）
田中 公浩（勝央町、和牛繁殖農家）

視聴出席者（敬称略）

池田 克美（県農林水産部畜産課）
本城 宏史（おかやま酪農業協同組合）
西野 芳仁（全農県本部畜産部）
舞原 正宏（岡山市農業協同組合）
植田 賢治（晴れの国岡山農業協同組合）
菱川 創太（岡山家畜保健衛生所）
川合 章（県立高松農業高等学校）
安達 萌花（県立瀬戸南高等学校）
関 哲生（中国四国酪農大学校）

座長

藤原 裕士
（県畜産協会）



開会挨拶

柴田 範彦（県畜産協会）



柴田：昨今の厳しい畜産情勢をうけ、これまでは高齢化を理由に戸数が減少していたが、飼料や物価の高騰、販売価格に転嫁できない

などにより、畜産農家は経営に行き詰まり、廃業が増加している。メガギガファームにより生産量や頭数は確保できてはいるものの、こういった状況が続くと更なる規模拡大は困難。コメを例にすれば、将来生産量が需要を下回る事態が起きると考えられている。畜産も同様になるのではないかと危惧している。そうならないために将来の後継者である畜産学生や若手経営者の皆さんの頑張りに期待している。今日の座談会では、販売価格、労働時間等どうなればよいかなど、忌憚のな

い意見交換をしてほしい。皆さんの意見を踏まえ、指導機関も一体となって取り組んでいきたい。

自己紹介



藤井：酪農大学校2年。酪農を目指した理由は、高校2年生の時に、酪農の特集をたまたまテレビで観て興味を持ったから。実際に牧場で

体験してみたいと思い、広島牧場に連絡して1日体験をさせてもらった。そこで酪農の面白さを感じた。毎日同じ作業をしても、牛の反応が毎日違うところが面白かった。



中田：高松農業高校畜産科学科3年。幼いころから動物が好きで、将来動物に関係する仕事に就きたいと漠然と思っていた。親戚のお

兄さんが高松農業高校生で、文化祭で牛をひいている姿を見て自分も進学を決めた。将来は酪農の道に進めたらと思っている。この座談会で酪農大学校や農家の方がどのような意見を持たれているのかききたい。



神田：瀬戸南高校生物生産科2年。皆さんと有益な意見交換が出来るのを楽しみに来た。中学生のころに調理師を目指していたが、そ

のもとになる農業を学びたいと思い、農業高校に進学した。

安富：岡山市北区で酪農、6次化をしている。



自分の時を振り返ってみると皆さん素晴らしい動機。私は普通科の高校に進学したが、子供のころから、実家が酪農家だったので牛は

身近にいた。進学はなんとなく畜産系の大学に行った。バイトばかりしており、出席日数も危うかった。その後、実家に帰って、実家を継いで酪農家になった。実際にやってみると大変だった。まず休みがない。家族経営で自営業というのは、努力しないと対価を得られない。サラリーマンのように決まった給料がもらえるわけではないと思った。



田中：奈義町で和牛を15頭くらい飼っている。酪農大学校を卒業後、蒜酪育成牧場に2年勤務。搾乳以外のことはだいたいやらせて

もらった。その後、F1肥育・和牛一貫牧場で6年働いた。私がその農場に就職後、すぐに従業員が入れ替わったので、入ってきた若い人に指導もした。その農場では昔からの飼育マニュアルがきちんとあった。この牧場で自分が学んだことを活かせる場が欲しくなり、独立を決意。畜産協会の入門講座に申込んで、関係機関にサポートしてもらった。県内の和牛牧場で働いている人もその入門講座に参加していて、繁殖部門の場長を探しているときいた。自分の牧場を持ちながらでも雇用してもらえと言うことだったので、兼業を開始。空き牛舎を買い取り、牛を飼い始めた。その牧場には5～6年務め、その後完全独立した。

藤原：高校の専攻で、畜産系ではなく普通科から酪農大学校に進学するケースも増えていると聞いています。高校に進学するときに普通科の選択肢はなかったですか？

藤井：私は体が弱く、通信制の普通科高校に進学した。提出物を出すだけで基本バイト。将来について考えることがない生活だった。その時に、先ほど話したテレビ番組をきっかけに酪農に興味を持った。

中田：全くなかった。子供のころからの憧れで、ずっと高松農業高校に行きたかった。

神田：調理師を目指しており、農業を学びたかったので、普通科の選択肢はなかった。

○これからの畜産業の働き方を考えてみよう

藤原：在籍している学校で様々な経験をしていると思いますが、その中で将来畜産業で働くときに、どのようなことが重要だと感じましたか。

藤井：畜産は生き物を相手にする仕事。酪農では毎日牛を健康に飼い、体調の悪い牛は早急に見つけて対処する。そうして安定した生乳生産をしていくことが、自身の生活の安定にもつながるため、毎日の細かい変化に気づくことが重要だと感じた。

中田：多くの人々に食料を供給するために、安全な飼料を給与して消費者が安心して口に入れることができる製品を作る自覚を持たないといけない。経営上、生産性を重視し、飼料効率が良く生産能力の高い牛も作らなければならないが、経済動物のアニマルウェルフェアも視野に入れながら家畜に接していかなければいけない。多くの人に安定して安

全な食料を供給するという使命と自覚が必要だと思う。

藤原：それは食料の安全保障という考え方からも重要。なぜ国内での生産が必要だと思いますか？

中田：輸入の安全性の問題や安定供給を確保するために必要だから。

藤原：中田さんにとってアニマルウェルフェアとは何でしょう？

中田：経済動物だからと言って負荷のかかる給餌や搾乳をしない、産次数の少ない牛が廃用にならないよう、経済的な寿命を全うさせてあげること。

神田：一つの命として大切に扱うことが重要。それと適切な給餌や飼い方。また、持続可能な農業に取り組んでいるかどうか。

藤原：神田さんの考える持続可能な農業とは？

神田：家畜の糞尿を圃場に還元し飼料生産すること。円を描くような生産体系だと思う。

安富：アニマルウェルフェアには5原則ある。酪農には色々な飼い方がある。置かれている環境によって、できることとできないことがある。うちの場合は、長命連産で牛の能力を引き出す、ストレスフリーに気を付けている。持続可能な農業については、耕畜連携に取り組んでいる。圃場はないが、堆肥として販売。耕種農家から稲わらを収集して餌に使っている。

藤原：アニマルウェルフェアはそもそも欧米の考え方。それが今日本に入ってきた。酪農家として、アニマルウェルフェアのデメリットはある？

安富：繋ぎ飼いの農家はどうなるのか。自由に歩けない飼い方もある。各農家でできるこ

とからやっていくことが大切。ウォータカップ一つでも牛が飲みやすいように工夫できる。それもアニマルウェルフェアだと思う。牛が過ごしやすい環境をつくるのが僕たちの使命。

藤原: そういった意味では、藤井さんが言われた牛をよく観察して、牛の変化に気づき、体調が悪い牛はすぐに対処するというのもアニマルウェルフェアの一つですね。

安富: 今は便利な機械がたくさん出てきているので、そのデータを見て未然に病気を防ぐのも立派なアニマルウェルフェアだと思う。

藤原: 畜産業は他の産業と比較して、年間労働時間が長い産業です。現在国は「ワークライフバランス（仕事と生活の両立）」を提唱していますが、畜産業でそれを実現するためにはどのような方法が必要だと思いますか。

藤井: 牧場が企業として従業員を雇えばいいと思う。地域の何戸かで共同でヘルパーのように雇うのも一つの方法だと思う。

中田: 雇用を増やして労働力を分散すると余暇が増えると思う。機械化や自動化も必要。しかし、機械化にはお金がかかる。資材費の高騰や最低賃金の値上げが経営を圧迫しているので難しい。自給飼料で生産費を抑えようとするそちらに時間をとられて生活の時間がなくなる。今の畜産業でワークライフバランスの実現は難しい。

農家はそれぞれプライドを持っていると思う。生活の時間を増やすより、生産性向上に時間を使うのではないか。生産性と生活の充実の両方を追い求めるのは、農家の考え方自体が変わらないと現実的でないと思う。

神田: 従業員を増やして、一人当たりの負担

を減らせばいいのでは。IT化・機械化で省力化する。ヘルパーの利用も必要。だが、お金もかかるので難しい。

藤原: 急なIT化は難しいが、時代の流れとしては必要ということ？

神田: はい。

安富: 既存のヘルパーを利用するのが一番良い。事業主としては、従業員とその家族を守る責務があるので、自分の生活は二の次になってしまう。

藤原: 学生の皆さんは勤務時間を終えたらきっちり帰りたい？

中田: 時間があるなら、牧場をよりよくするための時間に使いたい。

神田: 私も牧場のために使いたい。

田中: ワークライフバランスは人によって違うと思う。仕事が趣味の人もある。自分が充実していれば休みがなくても大丈夫。その点、個人事業主なら融通がきく。私は子供がいるが、PTAの役員を4年務めている。会社員より休みは少ないが、融通が利くので対応できる。従業員がいないので、私がいないと急なことがあると困るところは弱み。和牛農家へのヘルパー制度など、関係機関の支援があるとよい。結局のところ、その人の立場によるのではないか。会社に勤めた場合、会社の方針もあるだろうが、とにかく頑張ればよいというものではないと思う。

藤原: 畜産業は先輩や上司などから経験に基づく伝承により飼養管理を行う「師弟制度」が残っている場合があります。この「師弟制度」について、メリットとデメリットを教えてください。

藤井: 師弟制度はこれまでの経験で培われたものであり作業の中で家畜と長年関わってき

た人の知識なので経験の浅い人にはとってもいいものになると思う。一方でそれが正解だと思い視野が狭まってしまう可能性もあると思う。だから、広い視野を持ってもらうために様々な人の知識や経営方法を取り入れることも重要だと思う。

藤原: 勤め先の生産者や先輩のやり方が間違っていると思ったらどうしますか？

藤井: 先輩のやり方を否定せずに、少しずつ別の方法を提示する。

中田: メリットは長年蓄積されたノウハウを伝承することで、経験の浅い人でも経営危機に陥るような失敗を起こすリスクを抑えることができる。デメリットは視野が狭くなり、新しい取り組みに手を出し辛くなる。現状維持はできるが、大幅な事業の進展や増収の見込みが低くなると思う。

藤原: 先輩から、「このやり方でうまくやってきたから言われた通りにやっていればよい」と言われたら？

中田: 先輩にはそのやり方でやってもらう。自分は新しいやり方をできる場所を探すと思う。

神田: 経験のある先輩がいると臨機応変な対応がしやすい。一方でIT機器を導入する際に、従来のやり方との相違が生じ、新しい事への挑戦に時間がかかる可能性が考えられる。それができるはずの生産性向上ができないことにつながるのでは。

藤原: 親とやり方が合わない家族経営の例も聞くが？

安富: 私の農場では、皆さんが言われた直下型のデメリットをなくすために、農場HACCPに取り組んだ。上と下で意見を言い合える環境づくりが必要。従業員もデータをもとに経

営主を説得するやり方をしてほしい。経営主も自分の理論を持っているが、一歩ひいて話を聞く姿勢が大事。親子間でも同じ。私の場合は、親が話を聞いてくれたので、うまくいった。自分が親になったとき同じようにできているか自問している。

田中: 俺のやり方に従え、と言ってくる牧場は辞めた方がよい。私が最初に勤務した和牛牧場では長年の歴史があり、マニュアルがあった。そこでは、最初は言われたとおりにした。やっていくうちに自分が得た情報で試したいことがあれば、お金がかからないこと、失敗がすぐ取り戻せるようなことから経営主と相談しながら取り組んだ。次に勤務した牧場は新規立ち上げなので、何もなかった。「誰がやっても同じようにできるような」マニュアル作りを心掛けた。中間管理職的な立場として後輩の話を聞き、必要なことは上司に伝えていた。

藤原: 先人から受け継ぐ「師弟制度」は重要な側面がありますが、今の皆さんにはデメリットも多い。皆さんの話を聞くと、その部分を払拭するのが「マニュアル化」がキーポイントだと感じました。農場HACCPはそれを体現できる一つの方法だと思います。

○生産現場の課題を解決するためには？

藤原: 現在様々な要素から、家畜に与える輸入飼料が高くなり、畜産農家は経営が厳しくなっています。行政機関は国産飼料を作るよう方針を定めていますが、飼料を作る農家と使う農家の考え方、例えば、作るお米農家は家畜の飼料を作ることに抵抗がある、使う畜産農家は輸入飼料のように品質が安定

していない、などお互いの考え方が異なる場合があります。需要と供給が上手くいかないことがあります。この差を埋めるにはどうしたら良いのでしょうか。過去何度も同じような畜産危機はありましたが、なかなか耕畜連携が進みません。この連携を進めるためにはどうしたらいいのでしょうか？

藤井：ブランド米と提携して穂の部分以外を提供してそれを食べた家畜をブランドとして販売することがいいと思う。

中田：現在、野菜でも輸入の方が安い。消費者もそちらを買うので、作るのをやめた農家もいる。耕作放棄地や未利用地の活用が必要。私の高校では河川敷で飼料を作っている。国が造成して河川敷など未利用地を開発し、耕種農家と連携して飼料生産組合を作り、安定した質と量の国産飼料を生産して、輸入飼料に頼らなくてもよい環境を作ればいいと思う。

神田：畜産側と耕種側が手を組んで、一括購入すればいいのでは。耕種側には畜産側から堆肥で還元。ただ、耕種側も自然災害など難しい面もあると思う。

安富：耕畜連携として稲わらを収集して、堆肥を散布して循環しているが、それだけでは牛は飼えない。平均1枚1反くらいなので、拡大もできない。国主導で作目を決めるのが良いと思う。だが、そこまでできないので、輸入に頼っているのが現状だ。

田中：大きな視点では食料自給率や安全保障の面があり、国を守っていかなければならない。小さな視点では、補助金のこともあり耕種農家はWCSなど作りたがっている。需要と供給のマッチングは大事。堆肥の面でも畜産農家には耕畜連携しか手はないと思う。

藤原：耕畜連携について関係機関の視聴参加者の意見をお聞かせいただけますか。



池田：耕種・畜産・コントラそれぞれの意見がある。しかし畜産が生き残っていくのは、難しくても耕畜連携を進めるしかない。あわ

せて生産費抑制と同時に価格転嫁も必要だ。

藤原：畜産業を経営するためには、必要な機械や素牛を買うために定期的に多額の費用が必要になるなど、飼養管理の能力だけではなく経営のセンスが必要になります。あなたが経営者であると仮定した場合、「畜産業で儲ける」ために考えられることを教えてください。

藤井：飼料価格が高騰しているので残飼を出さないこと、そして費用の掛かる機械や牛舎を丁寧に使用し修繕回数を減らし長く使うことがその分儲けに繋がると思う。

中田：学生なので、経営者目線で学校の牧場でいくら費用がかかっているかを考えたことはなかったが、日頃から先生に自分でできることは自分でやるように言われている。機械の修理や削蹄・AIなどは自分でできるようにする。またフードロスの活用など。儲けを考える前に不必要な出費を抑え、堅実な経営を心がけることが大事だと思う。

神田：何にどのくらい使っているか牛舎の中で可視化して無駄を減らす事が大事だと思う。さらに、エコフィードや残飼の活用も必要。

安富：どんぶり勘定ではどうにもならない時代になった。うちでは、税理士を雇っているが、次年度の目標や何に投資するか、毎月検討会を行っている。餌を変えて費用を

抑えても、牛が体調を崩しては意味がない。NOSAIの代謝プロファイルテストを活用して変更したが、それが正解かはすぐには分からない。

田中: 餌の変更は畜産農家にとって重大問題。エコフィードやWCSに安易に手を出すと、取り返しのつかないことになることもある。私は酪農家にETをお願いして子牛を引き取っているが、その方法なら資金を寝かせる期間が短くなる。儲けしろは少ないが、リスクも低い。WCSも機械を揃えてできるだけ自分でした方が、最初はお金がかかるが、長い目で見れば安く抑えられる。

○畜産物を購入してもらうために消費者へどうPRする？

藤原: 国産の畜産生産物は現在生産する費用が高騰することに伴い、店頭の小売価格も上昇していて消費者が買うことをためらう場合があります。このような状況でも消費者に買ってもらうために、SNSを使って消費者へPRする方法があります。そこで、あなたがSNSでPRするとした場合、消費者にどのようなことを伝えたいですか。

藤井: 牛乳を使ったお菓子や料理と同時に、牛の動画を投稿することで牛の魅力を感じてもらい、僕のように牧場体験に行ってくれる人が増え、乳製品を使用した料理などは牛が命懸けで生産していることを知ってもらい、消費拡大につなげたい。写真より動画の方が現実感が伝わる。自分のような人が増えれば嬉しい。

中田: チーズやジェラートの工房などの場合、ホームページを作り、牧場の風景や動物と従業員たちの生き生きとした姿を発信する。市

販の牛乳はどれも地味な感じが多く、インパクトの強いパッケージにすれば店頭に並ぶ商品などは、一目で見つけられ好印象を与えることができるのでは。また、販売価格が高騰しているのは農業生産物だけではない。国内で生活する全ての人がそれを直視し、適正価格を理解して買い物ができるように国は何とかしてほしい。また、ネットですべて済んでしまう世の中なので、特徴を出したネット販売を強化することが必要だと思う。

神田: 地域や牧場の独自性をPRし、畜産業の楽しさややりがいを消費者に伝え、実際に牧場で体験してもらい、関心を持ってもらう。そういった食育で魅力を発信する。乳製品ができるまでの過程を動画にして、消費者に訴える。

安富: 私はインスタを活用している。牛の動画も消費者にとっては非日常。そこからファンを増やす。まず、牧場にきてもらい、生産現場を知ってもらう。そこからファンをリピーターにしたい。

田中: YouTubeを見ていると、分娩など自分たちにとっては当たり前のことが何百万回も再生されていて、一般の人には興味深いことなんだと感じた。そこからアピールしていくのも一つの方法。コロナ前に、種のつかない牛を肉にして自分で買取・販売したことがある。1頭すべてさばくのは大変だったが、私の牛を買いたいという人がたくさんいるのを知った。要はSNSではストーリーや信頼感が大事だと思う。

藤原: 口コミは大事だと思います。一方で、SNSの力を感じたことはありますか？

安富: 実感はできない。SNSから商品ページに飛んでいる人もいれば、「いいね」だけの

人もいる。

田中: SNSは無数の競合がいて、フォロワーを増やすのは難しい。名刺代わりに活用するのが良いのではないかな？

安富: 組織として考えるならば、運用するにはルールが必要。広告としての面が強くなりすぎないよう気をつけて投稿の割合や内容を考えている。

○フリートーク

藤原: 参加者の皆さんから質疑応答があればお願いします。

安富: 学生さんに質問だが、畜産に就職するときにあたって、牧場側に求めることは何？労働時間？給料？そのほかにある？

藤井: 自分も成長していきたいので、作業だけでなく技術の習得ができるか。給料は安くても、休日が確保されていればいい。

中田: もっとよくできると思った点があれば、率直に意見を言える職場。ただ、今は学生だが、守るべき家族ができれば、自分の意見よりも収入を優先すると思う。

神田: 安定した収入が第一。その次にやりがい、そして技術の習得。残業は30分から1時間までで、技術の習得につながるようなものであればよい。

藤井: 逆に、従業員に求めることは？

安富: 給料が発生するので、技量も求めるが、やる気を最重要視する。

田中: 指導者的立場の時は、後輩が「思っていたのと違ったので辞めます」、が多かった。無理に働き続ける必要はないが、自分のやりたいことと違ってても、我慢の先に意味があることもある。畜産業は命にかかわることもあ

るので、報連相ができる人が重宝される。

神田: 安富さんと田中さんの牧場の魅力は？

安富: 酪農は基本一元集荷多元販売。うちの場合は、6次化で直接消費者に届けられる。生産現場のモチベーションにもなっている。

田中: 会社より、業種としてだが、自分の思ったことができるのが魅力。やったらやっただけ自分の収入につながる。できるなら、自分で牛を飼ってほしい。どこかに勤めながらも、耕作放棄地に牛を飼うといったこともできる。私は住宅地の中の車庫に牛を繋いで飼っていたのがスタートだった。

中田: 昨今、機械化も進んでいるが、農作業事故はどうやったら防げる？

田中: 日常のヒヤリハットの積み重ねが事故につながる。小さなことから未然につぶしていく。

安富: TMRミキサーを覗き込まないなど張り紙をしておく。従業員が危険なことをしていたら注意する。小さなことの積み重ねが大事。

神田: 疲れている時に起こりやすいので、会社側が配慮する必要があると思う。

藤井: 機械を操作している人と周りの人がお互いに注意する。危険な箇所を書き出し、共通認識を持つ。

中田: 私は基礎的な安全管理ができない人には任せないこと、人手不足でどうしてもないときは、周りの人が注意すること、事故が起きた時の対処を事前に知っておくことが大切だと思う。

○視聴参加者からの質問

藤原: 視聴参加者からの質問があればお願い

いします。

池田: 学生さんに。卒業後、すぐに牛を飼いたいと思うか、それともいったん就職したい？

藤井: 一度牧場に就職して、技術を身に付けてから新規就農できれば。いきなり一から始めるのは不安がある。

中田: 経営者になりたいと思っていたが、田中さんの話を聞いて、やりたいようにできないデメリットもあるが、学べるところから学んでいった方が事故や廃業のリスクを減らせるので、まずは牧場に就職したいと思う。

神田: まず就職してから。農業機械や経営について知識も少ないので、基礎的なことを学んでから。

藤原: 本日は皆さんから様々な視点から貴重なご意見を伺えました。「畜産学生の視点 若手生産者との未来に向けた対話」
～若手のアイデアが畜産業を変える～と題し

てお話しを進めました。厳しい畜産情勢ですが、本座談会が次世代の畜産を担う学生さんや若手生産者の方々が畜産の未来を自身で作っていける一助となることを願っています。本日はありがとうございました。

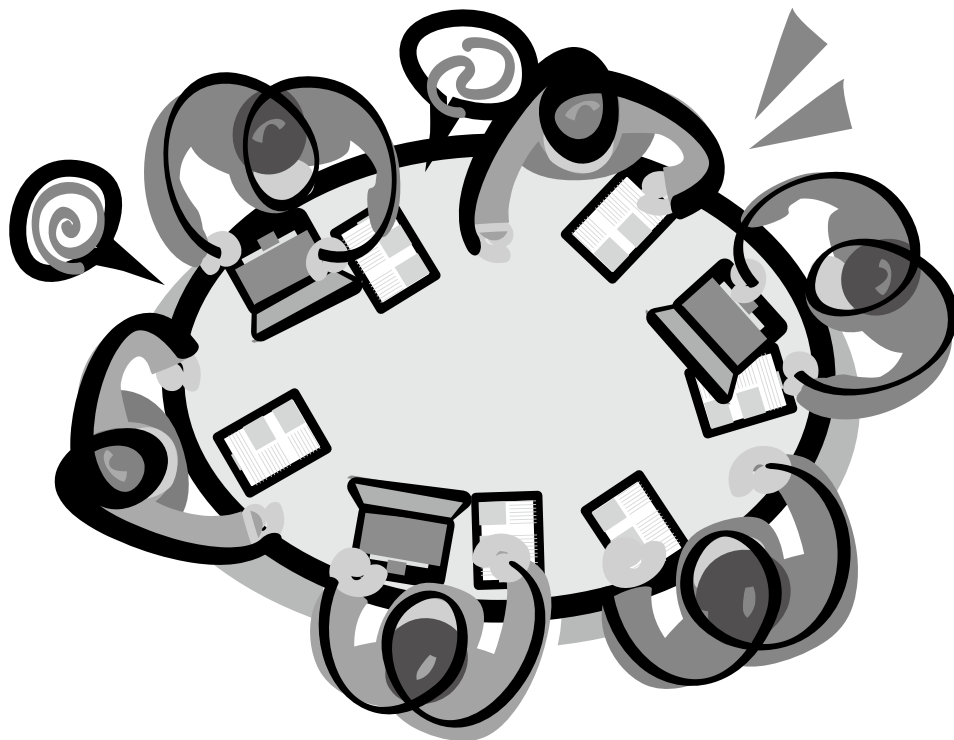
閉会挨拶

中塚 陽二郎 (県畜産協会)



今日の印象は学生さんが今の畜産情勢を真剣に考えていて、失礼ながらびっくりしたのが感想。将来に向けてなりたい自分を明確にす

れば、更に自身が今すべきことがわかってく
ると思う。生産者の方々もご参加いただき、
身近な方の意見も聞けたと思う。ぜひ今後の
方向性に役立てていただきたい。



〔家畜衛生〕

家畜衛生対策について

岡山県農林水産部畜産課

高病原性鳥インフルエンザについては、昨シーズン、全国的に多発し、本県でも初めての続発を経験しました。また豚熱については、野生イノシシを介した感染が原因と言われていますが、近隣県では感染確認が相次ぎ、本県に侵入リスクが高まっています。これらの状況と対応について紹介します。

1 高病原性鳥インフルエンザの対応

(1) 発生状況等

昨年度は26道県で84事例発生し、約1,771万羽が殺処分されました。

県内では4事例発生し、約74万羽を殺処分しました(表1)。

(表1)

発生日	場所	区分	殺処分数
10月28日	倉敷市	採卵鶏	約17万羽
11月4日	倉敷市	採卵鶏	約52万羽
11月11日	倉敷市	採卵鶏	約3万羽
12月20日	美咲町	あいがも	約1.8万羽

令和4年度の発生までは、本県では、殺処分した家きんを原則焼却してきましたが、2例目の発生が大規模で、1例目の発生から1週間後であったため、家きんの焼却に必要な資材が不足していたこと及び迅速な措置が必要なこと等から、県として初めて家きんを埋却しました。

(2) 本県の防疫措置

(表2)

	1例目	2例目	3例目	4例目
①	10/28 7:00	11/4 8:00	11/11 7:00	12/20 7:00
②	11/1 1:24	11/12 1:42	11/12 23:42	12/21 5:30

③	11/3 12:55	11/18 13:30	11/18 13:30	12/24 17:50
④	2,950人	5,380人		2,566人
⑤	950人	1,250人		—
⑥	11/18 20:00	12/3 17:00	12/3 17:00	1/8 14:00
⑦	11/25 0:00	12/10 0:00	12/10 0:00	1/15 0:00

＜凡例＞

- ①殺処分開始、②殺処分終了、③防疫措置完了、
④従事者数(行政、JAグループ、ただし家畜防疫員等は含まない)、⑤従事者数(自衛隊)、
⑥搬出制限解除、⑦移動制限解除

(3) 本県の取組等

農場等に対し、防鳥ネット整備や消毒の徹底など飼養衛生管理基準の遵守指導を行っていますが、昨年の発生を受けて、殺処分家きん用の埋却地の確保についても指導を強化しています。

2 豚熱の対応

(1) 国内での発生状況等

平成30年9月の岐阜県での発生以来、20都県で89事例発生し、これまでに約36.8万頭が殺処分されています。

(2) 本県の取組等

本県は、予防的ワクチン接種、野生動物侵入防護柵の整備支援、飼養衛生管理基準の遵守指導、野生イノシシへの経口ワクチン散布や検査等を行っていますが、このたび豚熱発生を想定した防疫演習を実施しましたので紹介します。

(3) 防疫演習の概要

令和5年10月5日、発生時に集合場所

の候補地の一つである備中県民局高梁地域事務所において、118 人が参加（別途、33 人が配信視聴）し、座学研修と実戦に近い形での演習を行いました。

ア 演習の目的

（ア）鳥インフルエンザとの相違点（表 3）を中心とした集合場所の設営及び運営方法の確認

（表 3）

鳥インフルエンザ	豚 熱
保健医療部が感染予防指導	防疫従事者各自が健康管理
作業は 4 時間／人	作業は 8 時間／人
小休憩のみ →基本的には防護服の脱衣はない	小及び大休憩 →大休憩時は防護服を 1 枚脱衣

（イ）建設業協会との連携による現地テント等の設置（表 4）の検証

（表 4）

組立式テント	ワンタッチテント
骨組みとなるパイプを組んで設置するテント（従来の防疫対策時に使用）	部品が一体化されており、広げたり縮めたりして設置や撤去ができる簡易テント
3.6 m × 5.4 m	3.0 m × 6.0 m



「ワンタッチテント」

（見学しやすいように天幕と横幕は未設置）

（ウ）一般動員者との連携による防護服着脱及び殺処分等のデモンストレーション検証

イ 演習結果の検証

（ア）健康管理に 25 分、防護服着衣に 20 分、休憩時の脱衣に 10 分を要し、鳥イン

フルエンザと比べて著しい遅延はありませんでした。参加者からは「良い内容だったので、実際の集合場所でも今回の研修を撮影した動画を流してほしい」との意見がありました。

（イ）現地テント等は、建設業協会作業員が設置。ワンタッチテントについては、壁面にボード等を掛けにくいことから着脱テント用に限定利用し、本部・資材テントは、従来の組立式テントの利用が良いとの意見がありました。

（ウ）殺処分等のデモンストレーションは、参加者から「大変参考になった」との意見がありました。



「殺処分演習中の様子」

（エ）その他、「今日のようなことが、本当に現場でできるのか？敷地が狭い農場については、どう考えているのか？」などの意見がありました。こうした問題から目を背けず、当事者意識を持って対応しなくてはなりません。様々な関係者と連携し、一つ一つ対策を進め、実効性のある防疫計画を策定したいと考えています。

3 おわりに

昨年度の高病原性鳥インフルエンザ発生時には、昼夜を問わず多くの方々に防疫措置の御協力を賜りました。改めて感謝と御礼を申し上げます。今年度も発生が危惧されますが、引き続き緊張感をもって対応してまいりますので、皆様の御理解と御協力をよろしくお願いします。

牛の分娩管理

～畜産研究所の事例から～

岡山県農林水産総合センター 畜産研究所 改良技術研究室 繁殖衛生研究グループ

1 はじめに

厳しい畜産経営の中、生産性の向上や経費の削減が求められています。

生産性の向上において経営に直接影響を与えることとして分娩管理がありますが、分娩監視は昼夜を問わず必要で、分娩時の難産や死産の低減を図ることは重要です。

そこで、牛の分娩時の注意点と和牛の妊娠期間について当研究所の分娩データをまとめてみましたので、ぜひ生産性向上対策の参考にしてください。

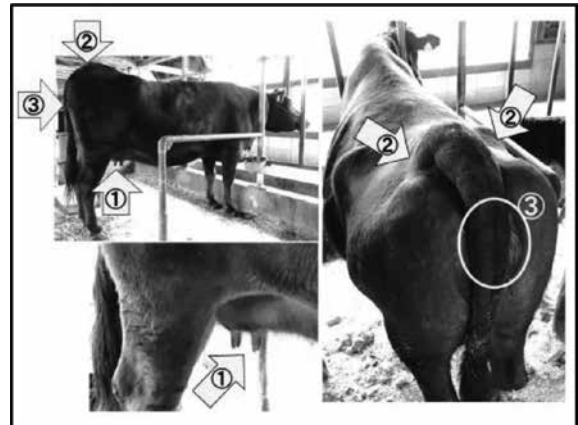


図1 分娩の前兆

2 牛の分娩時の注意点

(1) 分娩の前兆 (図1)

分娩の数日前から現れ、分娩が近づくとつれ顯著になります。その前兆でわかりやすい観察のポイントを3つ紹介します。

- ①乳房が張る：分娩直前には乳頭も腫れてきます。和牛でもよくわかります。
- ②尾の付け根の靱帯が緩む：尻尾の付け根を斜め上から指で押すと柔らかくなっています。骨盤靱帯が緩み産道となる骨盤腔が開いている証拠です。
- ③外陰部が腫れる：胎児が通過できるようかなり腫れます。

予定日が近いのに前兆が無かったり弱い場合は母体の準備が出来ていないので、分娩日が延びたり、難産の危険性が高くなるので注意が必要です。前兆が全く無い場合は、流産していて胎児がいなかったという例もありますので、妊娠期間中は分娩予定日まで注意し、異常があれば再度妊娠確認をしておくことも大事です。

(2) 分娩1期 (開口期)

出産(娩出)の数時間から1日前くらいに陣痛が始まり、子宮頸管が開きます。この時期には、分娩房の中を動き回ったり、尾を挙げるなど牛の挙動に変化が見られます。このような場合は、娩出に備えて敷料をたっぷり入れて静かに見守りましょう。

(3) 分娩2期 (産出期)

陣痛が強まり胎児が出てきます。外陰部から袋(尿膜)が出てきますが、これは産道を広げる役割があるので自然に破水するまでは破ってはいけません(袋は2つ出てきますが、1つ目には液体のみです)。次に2つ目の袋(羊膜)には中に足が見えます。産道に入ってから3～4時間までには娩出され、多くは、両前肢と頭から出てきます。頭が確認できない場合、逆子の場合がありますが、後肢かどうかは蹄から関節を曲げた時の曲がり方で確認します(図2)。途中で陣痛が無くなったり、娩出が進まない場合は助産が必要になります。胎児が過大でなければ大人1～2人程度の力で陣痛

に合わせてゆっくり牽引します。陣痛があるのに娩出されない場合は、胎子の姿勢がおかしかったり子宮捻転などの可能性もありますので早めに確認してください。

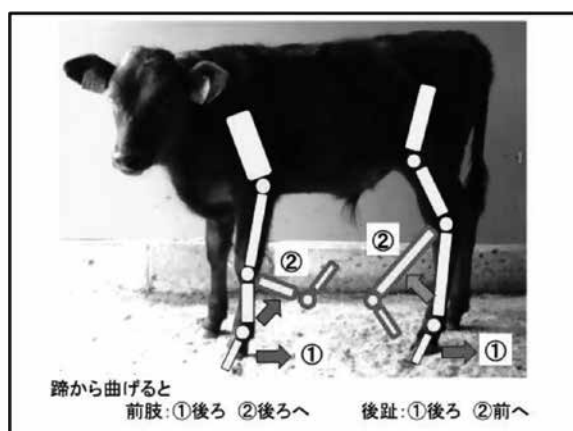


図2 前肢と後趾の確認方法

(4) 分娩3期（後産期）

分娩というと子牛が出たら終わりと思われがちですが、胎盤が剥がれ落ち後産が出るまでが分娩とされています。通常、子の娩出後3～4時間で出ますが、数日出ない場合は「後産停滞」という病気の状態になり、産後の母体の回復が遅れてしまいます。正常な分娩経過でなかったり、無理な介助を行うと起こりやすいので、正常な分娩経過の時は静かに見守り、自然分娩になるよう心掛けましょう。

3 和牛の妊娠期間が延びている？

妊娠期間（在胎日数）は胎子の品種によるとされ、和牛では授精から平均285日です。しかし、近年では延びているのでは、と言われています。

そこで、当研究所で令和2年度以降に自然分娩した和牛子牛について調査しました。区分は、授精方法別に和牛に和牛を人工授精した「AI」、和牛に和牛卵を移植した「母和牛ET」、乳牛（ホルスタイン）に和牛卵を移植した「母ホルET」としました。

分娩予定日は、AIの場合は授精から285日後、ETの場合は移植日から278日後とし

ました。予定日と実際の分娩日との差の割合は、図3のとおりで、どの区でも予定日を過ぎたものが多くみられました。

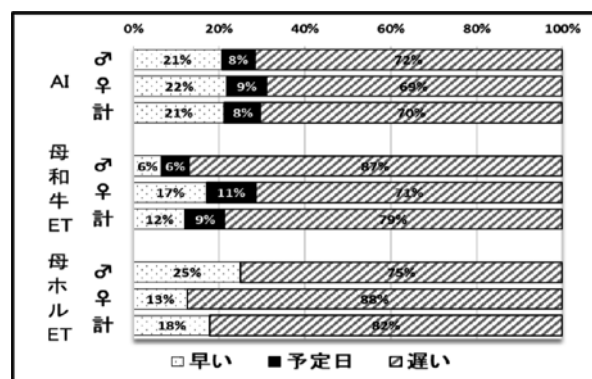


図3 畜産研究所における和牛産子の分娩日数（令和2年～令和5年）

表1は予定日との差の日数です。全平均は、「AI」の2.9日に比べ「母和牛ET」は4.3日、「母ホルET」は6.2日とやや延びていました。産子の性別では「AI」と「母和牛ET」で雄が延びていました。しかしながら、分娩予定日との差は-13日から+20日と広い幅があり、性別や妊娠方法で個々の分娩日を推測することは難しいと思われました。

表1 畜産研究所における和牛産子の分娩日数（予定日との差、令和2年～令和5年）

		平均 日数	平均日数(範囲)	
			予定日前分娩	予定日以降分娩
AI	♂	3.5	-5(-13~-1)	+6(+1~+17)
	♀	2.4	-4(-10~-1)	+5(+1~+11)
	計	2.9	-4(-13~-1)	+5(+1~+17)
母和牛ET	♂	5.8	-8(-11~-6)	+7(+1~+15)
	♀	3.0	-7(-12~-3)	+6(+1~+20)
	計	4.3	-7(-12~-3)	+7(+1~+20)
母ホルET	♂	5.8	-5(-4~-1)	+9(+3~+15)
	♀	6.5	-7(-12~-3)	+8(+3~+15)
	計	6.2	-6(-12~-1)	+9(+3~+15)

4 おわりに

分娩日の正確な予測は難しいため、分娩の前兆をよく観察が第一です。近年では分娩を監視する機器も多くありますので、それらの利用も一つの手段です。

分娩や繁殖について不明な点がありましたら、お気軽に畜産研究所へお問い合わせください。

岡山家畜保健衛生所家畜病性鑑定課の 近況紹介

岡山家畜保健衛生所家畜病性鑑定課

1 業務概要

岡山家畜保健衛生所家畜病性鑑定課は、所長のもと課長を含め6名体制で業務を遂行しています。県内で発生した家畜疾病について病理、細菌、ウイルス、生化学部門の職員が各々の知識と経験を生かして正確な診断を行っています。また、これら疾病についての調査研究や、県全体の病性鑑定技術の向上を目指し家保職員向けの技術研修も実施しています。

2 近年の状況

ここ20年来、当課を取り巻く状況は大きく変化しています。BSEが国内で初発生し、過去の疾病であった高病原性鳥インフルエンザ、口蹄疫、豚熱が再び国内に侵入しました。特に鳥インフルエンザや豚熱に関しては野生動物が関与した病原体の侵入が疑われているため、これらの検査業務も加わりました。県内では、牛伝染性リンパ腫のような慢性疾病への対策や高度な肥育技術への意識の高まりとともに、飼養家畜や導入家畜に対する検査の要望が増加しています。検査技術も年々高度化・精密化しています。

3 変化への対応

状況の変化を踏まえ、当課も検査体制を整えてきました。

- (1) BSE:平成15年に専用の検査室を増設し、検査手技を相互にチェックできるよう2人体制での検査をスタートさせました。
- (2) 口蹄疫:各家畜保健衛生所を対象に、実際に牛を使った咽頭ぬぐい液の採取方法の研修を実施し、発生に備えました。
- (3) 高病原性鳥インフルエンザおよび豚熱:

病原体の外部への漏洩を防ぐため、令和2年度に専用の検査施設を設置し、室内を家畜検査専用室と野生動物検査専用室に分け、外部からの検体搬入口も完全に分けて交差汚染を防ぐ体制を整えました。また、毎年職員全員で研修を実施し、スムーズな診断体制を整えています。令和4年度は県下初の高病原性鳥インフルエンザ4件連続発生（県内初の水禽での発生1件を含む）でしたが、この体制のおかげで最後まで正確に診断することができました。

鳥インフルエンザは毎月、県下複数の養鶏農場でモニタリング検査を実施しています。また環境省の死亡野鳥検査を実施しており、令和5年度は11月現在ですでに2件でウイルスが検出されています。豚熱も令和3年の岡山県でのワクチン接種開始後、ワクチン抗体検査や、移行抗体検査による接種適期調査を実施しています。また捕獲いのししや死亡いのししの検査を実施して野外のウイルスの浸潤状況を調査しています。幸いにも現在のところ豚熱ウイルスは検出されていませんが、近隣の4県（鳥取、兵庫、広島、香川）では既に陽性が確認されているため、予断を許さない状況です。

- (4) 検査技術の高度化:動物衛生研究部門の専門家や他県の先駆者などとの情報交換を通じ、常に技術のアップデートを行っています。

4 研究成果

前述のとおり、当課は病性鑑定業務のほか、調査研究も重要な業務となっています。今回は令和4年度岡山県畜産関係業績発表会にて発表した演題をご紹介します。当演題は全国

の業績発表会にも選抜されたものです。

「哺乳豚の腸管外病原性大腸菌 (ExPEC) 感染症 1 症例」

豚の大腸菌症のうち腸管以外に感染して発症する ExPEC 感染症は、生後 1～2 週齢の新生豚に発生し、特に 3 日齢以内での発生が多く、発生率は低いものの、死亡率は 80% におよぶこともあります。豚の ExPEC 感染症については不明な点が多いのが現状です。今回、哺乳豚で ExPEC 感染症が確認されたので、詳細に解析しました。皮膚炎を呈して治療中の哺乳豚 15 頭のうち 9 頭が死亡したため、死亡豚と衰弱豚を各 1 頭検査しました。いずれも皮膚が黒ずみ、痂皮を伴う皮膚炎が観察されました。死亡豚の主要五臓器等に化膿性炎が認められましたが、衰弱豚の臓器に著変は認められませんでした。

細菌検査の結果、死亡豚の臓器等から血清型 O6 と OUT (血清型不明)、小腸内容物から血清型 O8 と OUT、衰弱豚の小腸内容物からも血清型 O8 と OUT の大腸菌が分離されました。それぞれの株の溶血性と ExPEC に関連する病原因子の保有状況は表 1 に示すとおりで、血清型 O6 株は 12 種類と多くの病原因子を保有していました。

表 1 血清型・ExPEC 関連病原因子

個体	分離源	溶血性	血清型	毒素		付着因子		血液凝集性		鉄取込能						荚膜	
				<i>vat_A</i>	<i>ast_A</i>	<i>pap_C</i>	<i>fim_A</i>	<i>iss</i>	<i>tra_I</i>	<i>iut_A</i>	<i>iuc_D</i>	<i>fyu_A</i>	<i>irp₁</i>	<i>irp₂</i>	<i>iro_N</i>		<i>Kp_{MI}_{II}</i>
死亡豚	主要五臓器・皮下	β	O6	+	-	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
		-	OUT	-	-	-	+	+	+	+	+	-	-	-	-	+	-
	小腸内容物	-	O8	-	-	-	+	+	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		-	OUT	-	-	-	+	-	-	-	-	+	+	-	-	-	-
衰弱豚	小腸内容物	-	O8	-	-	-	+	+	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		-	OUT	-	+	-	+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

・全ての菌株で保有が認められなかった因子：毒素*cnf2*,*edhA*、付着因子*afa*,*tsh*,*F17*、遺伝子伝達性*cvf/cva*

分離された大腸菌で系統発生群識別 PCR という遺伝子検査を実施した結果は表 2 のとおりとなりました。血清型 O6 株は ExPEC が多く分類される B2 グループに分類されました。

表 2 系統発生群 PCR 結果

個体	分離源	溶血性	血清型	系統発生群
死亡豚	主要五臓器・皮下	β	O6	B2
		-	OUT	B1
	小腸内容物	-	O8	B1
		-	OUT	A
衰弱豚	小腸内容物	-	O8	B1
		-	OUT	B1

また検査豚の組織を血清型 O6、O8 株に対する抗体で染色 (免疫染色) したところ、図 1 のような結果となり、死亡豚で血清型 O6 株が全身感染し病変形成したと考えられました。

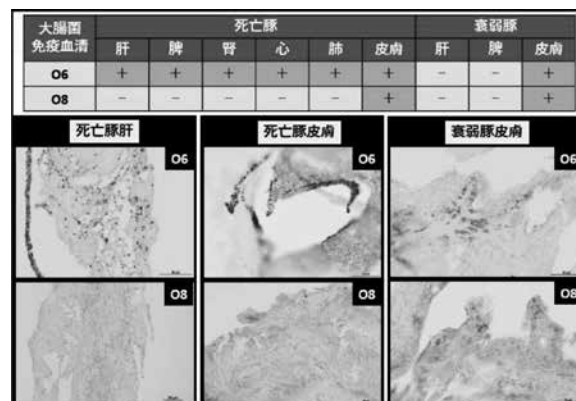


図 1 免疫染色結果

死亡哺乳豚への血清型 O6 株の感染経路は、臓器と皮膚との分離大腸菌が解析の結果近縁であったことから、皮膚の損傷部位と推察されました。しかし母豚と同居豚からは近縁な大腸菌は分離されず、感染源の特定はできませんでした。血清型 O6 株は ExPEC 関連病原因子を 12 種類保有し、病原性が高いとの報告もある B2 グループに分類され、免疫染色で病変部に分布していたことから、病変形成に関与したと考えられました。ヒトの ExPEC 感染症でも血清型 O6 株による症例が報告されており、今後も豚における同株の動向に注視していく必要があると考えられます。

5 最後に

昨年度過去最多の高病原性鳥インフルエンザ発生を経験し、豚熱は四方をいのしし陽性県に囲まれ、新型コロナは明けて海外からの人流が活発化している現在、課内は次に来る状況変化に緊張感を持って備えています。今後も多様な業務に対応しつつ伝染病の早期・正確な診断による蔓延防止に努めていく所存です。

〔県民局だより〕

県産飼料利用拡大研修会が 開催されました！

美作県民局畜産第一班

1 はじめに

輸入飼料価格については、高止まりが続いている状況です。飼料コスト上昇による経営逼迫を改善するためには、県産飼料の利用が有効と考えられます。

そこで、県と畜産協会主催で、県産飼料の生産利用拡大による経営安定を図ることを目的として、令和5年11月24日におかやま酪農業協同組合等で、稲作農家、酪農家、関係機関を対象に「県産飼料利用拡大研修会」が開催されました。



写真1 研修会の様子

2 研修内容

(1) 「耕畜連携推進の取組状況について」

岡山県畜産課より県産飼料の耕畜連携推進に関する報告がありました。

県では、令和5年6～7月に県内畜産農家を対象に、R6年産県産飼料の需要量調査を実施しました。集計した結果、新規の取組希望だけでなく、既に県産飼料を利用している畜産農家でも拡大の要望があり、現在耕種農家とのマッチングに向け、関係機関(再生協、農協、市町村、県(本庁、県民局))で連携しながら、推進しているところです。

(2) 県産飼料(稲WCS等)利用の取組紹介

講師として、津山・勝英地域の県産飼料を利用している酪農家3名から、主に稲WCSの利用に関する取組事例について、紹介していただきました。

① 梶岡由嗣氏(津山市)酪農家

【経営規模】

○頭数：55頭(経産30頭、育成25頭)

○県産飼料利用面積

稲WCS 9ha、イタリアライグラス等 5ha

○県産飼料給与量(分離給与)

(経産牛)：稲WCS 8kg/頭・日

○取組内容と利用の感想

現在利用している粗飼料は、100%県産飼料です。専用品種を細断した稲WCSは発酵品質が良く、嗜好性も良好です。県産飼料に変えたことで牛の体調がよくなったように感じています。また、今年から、出穂前期に牧草収穫機で刈取した「早刈り稲WCS」の利用を開始しました。これは、切断長30～40cmとやや長めに調製したもので、粉が少なく、たんぱく質含量が高い良質な飼料で今後も継続して利用したいと考えています。



写真2 梶岡由嗣氏



写真3 早刈稲WCS

②宮野晃好氏（勝央町）酪農家

【経営規模】

○頭数：経産牛59頭

○県産飼料利用面積

稲WCS 9ha、イタリアライグラス等 9.5ha

稲わら 5ha

○県産飼料給与量（分離給与）

（経産牛）：稲WCS 6kg/頭・日

牧草類 1kg/頭・日

○取組内容と利用の感想

年間約600ロール利用しています。発酵品質が良いので、嗜好性が良く、暑熱期でも牛がしっかり食べてくれます。運搬作業等労力的に課題もありますが、今後も生産・利用拡大していく計画です。



写真4 宮野晃好氏

③永禮淳一氏（津山市）酪農家

【経営規模】

○頭数：55頭（経産35頭、育成20頭）

○県産飼料作付面積

牧草（イタリアライグラス等）25ha

○県産飼料給与量（TMR調製後給与）

（経産牛）：イタリアライグラス 12～15kg/頭・日

○取組内容と利用の感想

県産飼料を利用することで、国際情勢の影響を受けにくく、安定的な給与ができています。また、堆肥のは場還元等による耕畜連携の取組もできており、経営面でメリットが大きいと感じています。

（3）現地視察

「永禮牧場における県産飼料の生産・利用の状況」

研修会後半には、津山市の永禮牧場の現地視察が行われました。永禮氏は稲作農家らと（一社）LAアライアンスを結成し、飼料作物の生産・収穫作業を構成員で分担しながら行っています。調製したロールは、地域内だけでなく県南の農場にも供給されています。今回は、飼料生産する上で必要なトラクター、ロールベアラー等農業用機械を見せていただきました。また、県産飼料を用いたTMRの調製・給与の方法についても説明をしていただきました。



写真5 永禮淳一氏

3. おわりに

本研修会は、県産飼料利用農家の取組を知ることで、今まで県産飼料を利用したことがない畜産農家でも利用促進につながる機会となりました。今後も関係機関と連携しながら県産飼料の生産利用の拡大に取り組んでいきます。

〔共済フレッシュさん〕

二年目を迎えて

美作家畜診療所 堀間 大我

皆さんこんにちは。美作家畜診療所にて働く、獣医師二年生の堀間大我と申します。この場をお借りして自己紹介をさせていただきますと思います。

私は生まれてから大学卒業までの24年間を神奈川で過ごしました。電車に乗れば身動きの取れないほどの満員電車、車で移動しようとしたら渋滞にハマるような場所で育った私は、将来は人の多すぎないところで暮らそうと考えていました。こうしてたどり着いた岡山は私にとって理想郷のような世界でした。人の行列や車の渋滞に悩まされることもなく、毎日のびのびと生活しています。

仕事の方とはいうと、私は牛のことをほとんど何も知らないまま畜産の世界に飛び込んでしまったため、最初は妊娠中の牛がミルクを出せることすら知らなかったです。(もしや、大学で習うことでしょうか…)そんな状態で始まった私の獣医師人生ですが、1年目で一番大変だったのは意外にも事務所に戻ってからの事務作業でした。これを覚えるのがまあ大変で、カルテの書き方や業務の報告のしかたなどを、1つ覚えてはミス指摘され、また1つ覚えては1つ忘れての繰り返しでした。牛の診療の方がずっと分かりやすかったですね。(笑)さすがに2年目ともなると事務作業も効率的になり、余裕のある日には職場の先生たちと治療の相談や新しい知識の共有を行うことで充実した毎日を過ごすことができます。今後はセミナー等に積極的に参加し、人とのつながりを増やしていこうと考えています。

仕事の話はさておき、すこし私の趣味について書いてみようと思います。私は去年

の夏から津山市に拠点を置くダークアイズジャズオーケストラにてトランペットを吹いています。中学から大学までの12年間を吹奏楽に費やした私は、楽器演奏こそが生き甲斐になっています。特にトランペットという楽器は音がとても目立つため、吹いていて爽快感があります(ミスした時の絶望感も半端ないですが)。この楽器特有の緊張感がとても面白い楽器です。もし吹奏楽部出身の方や楽器を趣味にされている方がいらっしゃったら是非教えて頂きたいです。ダークアイズジャズオーケストラは、鶴山公園で行われるさくら祭り・紅葉まつりや、商店街で行われる地ビールフェスタなどで演奏活動を行っています。興味のある方は聴きにきて頂けると嬉しいです。

最後になりますが、私の拙い文章をここまで読んでいただきありがとうございます。いよいよ獣医師としての生活が本格的にスタートします。知識や技術が及ばないことも多々あるとは思いますが、毎日の驚きや発見を糧に邁進していきます。



倉敷ビッグバンドフェスティバルにて。
(写真右側が私です。)

〔畜産現場の声〕

和牛繁殖農家を目指して

井原市美星町 譚 春艶

私は、酪農家として約100頭の乳牛を夫婦で管理していましたが、様々な事情により酪農家としての経営管理が厳しくなり2010年頃から徐々に和牛繁殖経営に転換をしていくようになりました。転換当初は乳牛を数頭残し、和牛受精卵を使った雌牛の保留と子牛の出荷を行いながら経営を行ってきました。

和牛繁殖経営に転換して苦労したことは、これまでの酪農経営とは違い、1つは出生から育成期間を経て繁殖雌牛として子牛を出産するまでに約2年もの間、収入が確保できないため、兼業農家として朝早くから牛の世話をおこない、日中は仕事に出勤して、帰宅してから牛の世話をすることになるため、管理にかけられる時間が限られていることです。

もう1つは肉用牛としての育成方法についての知識がなかったため、どのように飼養管理をすれば良いのか、近くの和牛農家さんから学びながら育ててきた点です。

つぎに和牛繁殖農家に転換して取り組んだことは、より本格的に和牛繁殖経営を行うため農協さんに増頭事業・預託事業で協力をしていただき岡山子牛市場で繁殖雌牛として期待できそうな子牛の導入と、授精師さんに優良な雄牛の人工授精をおこなっていただいた自家産の雌牛を保留することによって、和牛繁殖が13頭、受精卵用にF

1が3頭、乳牛が1頭の計17頭までになり、1年間に出荷できる子牛の数も増やすことが出来ました。

将来的には和牛繁殖の頭数を20頭まで拡大したいと思っています。

また増頭と併用して取り組んでいることとして、県の補助事業を利用させてもらいローラーバレーなど機械を導入して、牧草の自家栽培にも取り組むようにしました。

たまたま近隣の方から耕作放棄地を借りることもできたおかげで、全体で約1町程度の牧草地が確保でき、これまで外部から購入していた牧草の一部を自家栽培することで経費を削減することができたように思えます。

現在の大きな課題としては、国際情勢の影響による飼料価格の高騰による経費の増大と繁殖農家の収入源である子牛価格の低下によって、繁殖経営を取り巻く環境が非常に厳しい状況となっていることです。

この状況を乗り越えるために、優秀な繁殖雌牛を増やしていくことで期待がもてる元気な子牛を産んでもらい、自家栽培で栄養価の高い良質の牧草を生産して、飼養している牛たちに給餌することで元気で大きな子牛に育てていき、県内外の肥育農家の方々から注目される繁殖農家を目指してこれからも頑張っていきたいと思っています。

〔生乳検査 NOW〕

生乳検査NOW：令和5年度上期

一般社団法人岡山県畜産協会生乳検査センター

ウクライナやイスラエル等の社会情勢や急激な円安を受けて飼料費など経費の高騰と子牛価格の下落により酪農環境は一段と厳しい状況により廃業農家が増加している。そんな本年度上期を終えた今、現況の乳量や生乳検査成績を通して乳質を紹介します。

1. 生乳生産量（生乳検査対象乳量）

図1は、令和3～令和5年度上期までの岡山県の生乳生産量の推移ですが、今期生産量は46,121トンで、対前年同期比95.6%であり、減少傾向であり、廃業農家の増加や低能力牛の淘汰によると考えられます。

中国地区全体でも今期の対前年同期比は、96.3%でした。

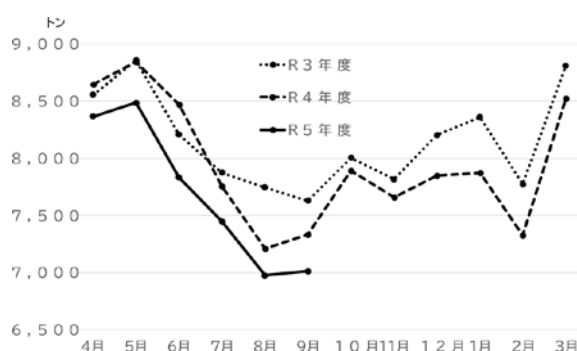


図1 生乳生産量の推移（岡山県）

2. 乳成分

（1）乳脂肪率の推移

図2、図3は、ホルスタイン種及びジャージー種の令和4年度と令和5年度の、乳脂肪率の推移です。ホルスタイン種は、上期は昨年度よりやや高く、ジャージー種は4月から6月はやや低く推移したものの7月～9月は高くなりました。

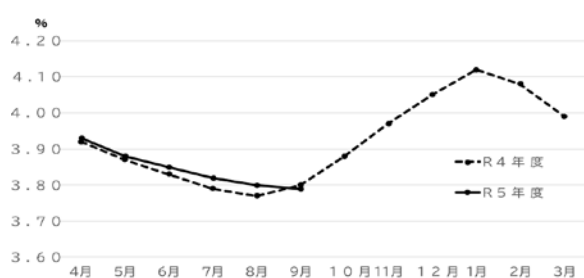


図2 ホルスタイン種乳脂肪分の推移

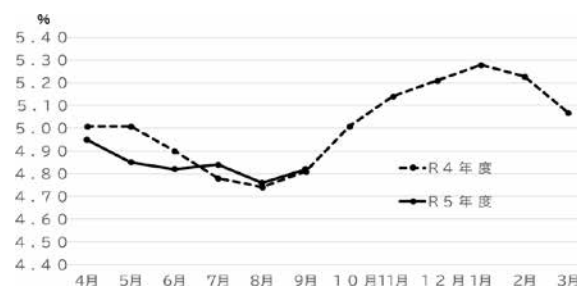


図3 ジャージー種乳脂肪分の推移

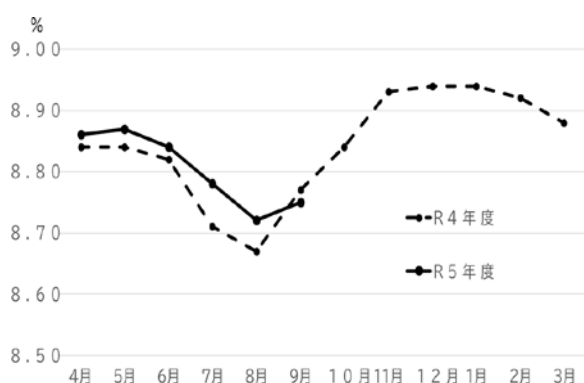


図4 ホルスタイン種無脂乳固形分の推移

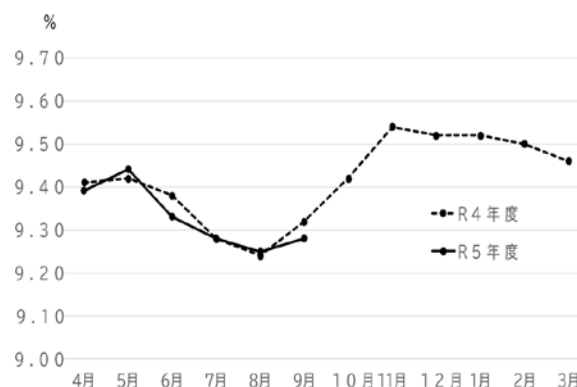


図5 ジャージー種無脂乳固形分の推移

(2) 無脂固形分率の推移

図4、図5は、ホルスタイン種及びジャージー種の無脂乳固形分率の推移です。ホルスタイン種は、脂肪率同様に4月～8月までは高い傾向で、ジャージー種は4月、6月、9月が昨年度より若干低い値であり、飼料費の高騰や暑さが影響した可能性があります。

3. 体細胞数

図6は、本年度上期の中国地区各県の体細胞数30万未満／mlの適合率を、各月別にみたものです。

鳥取県は、適合率が89.9%～95.7%で推移しているのに対し、岡山県は64.1%～78.3%と特に6月以降は鳥取県と比較して約21%から29%低く推移しており、特に、9月には64.1%まで低下しています。

図7は、本年度上期の体細胞数適合率を、岡山県の地区別にみたものです。備南、びほく、真庭地区では、約72%以上であったのに対し、西大寺地区65.7%、東部地区67.1%、津山地区68.5%と70%以下の適合率でした。

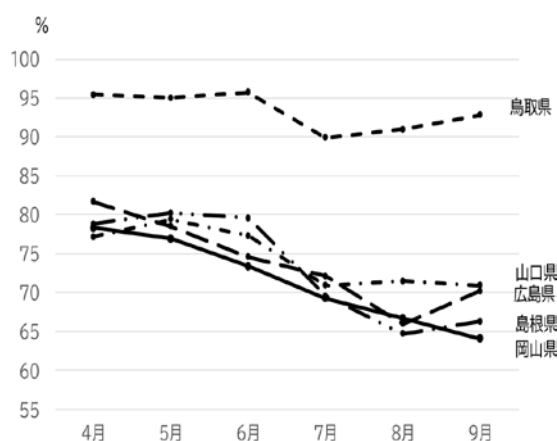


図6 県別体細胞数適合率 (R 5年度上期)

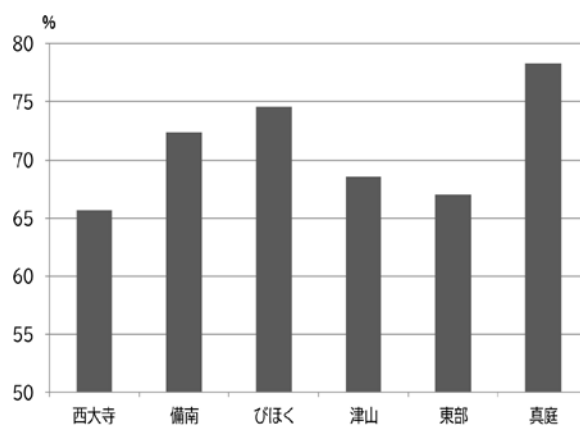


図7 地区別体細胞数適合率 (R 5年度上期)

4. 細菌数

図8は、岡山県の地区別の細菌数10万未満／mlの適合率を、地区別にみたものです。全ての地区90%以上でありましたが、95%以上であったのはびほく、津山、真庭地区であったのに対し、西大寺地区93.6%、備南地区94.1%、東部地区91.0%と低い適合率でした。

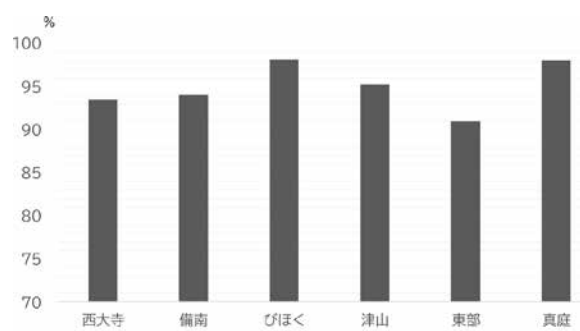


図8 地区別細菌数適合率 (R 5年度上期)

資材や飼料費の高騰が続く中、乳価の低迷により全体で85%が赤字経営であるとの調査結果がでています。こんな状況を少しでも改善するには、安定的な粗飼料の確保と良質な生乳生産に向けて更なる関係機関の指導の必要性が大いに感じられます。

謹 賀 新 年

本物の味わい……新鮮な岡山の畜産物。

地方競馬益金は畜産振興を支援しています。

岡山県馬事畜産振興協議会

謹 賀 新 年

岡山県養豚振興協会

会長 菱川 大二郎

事務局 岡山市北区磨屋町9-18 岡山県農業会館
(一社)岡山県畜産協会内 (086)234-5981

謹 賀 新 年



おかやま酪農業協同組合

代表理事組合長 長恒 泰治

〃 専 務 檜尾 康知

〒708-0841 津山市川崎94-1
TEL(0868)26-1101 FAX(0868)26-6763



謹 賀 新 年



蒜山酪農農業協同組合

代表理事組合長 長恒 充

〒717-0501 岡山県真庭市蒜山中福田958
TEL(0867)66-3645 FAX(0867)66-3647
E-mail:jersey@hiruraku.com <http://www.hiruraku.com>

謹 賀 新 年
公益社団法人 **岡山県獣医師会**

会長 中村 金一
役職員一同

〒700-0973 岡山市北区下中野350-103
TEL (086)243-1879 FAX (086)241-8543 <http://www.oka-vet.or.jp/>

謹 賀 新 年
岡山県農業信用基金協会

農家のための優良保証機関 会長理事 宮武 博

〒700-0826 岡山市北区磨屋町9番18の401号(岡山県農業会館)
TEL(086)222-3218 FAX(086)226-3443

謹 賀 新 年
畜産経営の安定に寄与する
(一社)岡山県配合飼料価格安定基金協会

理事長 坂本 修三
役職員一同

〒700-0973 岡山市北区下中野350-103
TEL(086)241-4733 FAX(086)241-4722

謹 賀 新 年
岡山県家畜人工授精師協会

当協会は家畜改良増殖の促進と家畜人工授精技術の向上を通じて、
岡山県の畜産振興に尽力します。

会長 狩 谷 和 宏
役員一同

謹 賀 新 年

畜産機械器具、資材取扱

西日本興農株式会社

代表取締役 柿 本 平 三

〒708-0841 津山市川崎86-1

TEL 0868-26-1180 FAX 0868-26-6836

謹 賀 新 年

岡山県養鶏協会

会長 安 原 健 二

役員 一 同

謹 賀 新 年

岡山県孵卵協会

会長 山 上 祐一郎

謹 賀 新 年



オールインワンが自信を持ってお届けします



日本初!



**BOVINE
CRYPTO-EP**
100ml×10本入り



牛用飼育用混合飼料
ボバインクリプト-EP

ついに登場!

乾乳から分挽へ
**移行期
サプリメント**



乳牛・肉牛飼料の専門メーカー

株式
会社

オールインワン

ご用命は

中国支店: 〒710-0826 岡山県倉敷市老松町1丁目2-40-101
TEL(086)427-6300 FAX(086)427-6011
E-mail: y-suwa@all-in-one.co.jp

謹賀新年



鳥根県 (株) 松永牧場 生産種雄牛



岡山県農林水産総合センター
畜産研究所 生産種雄牛

本年も当団種雄牛を宜しくお願い致します。
職員一同

YouTubeもしています!



岡山種雄牛センター

TEL:0868-57-2475 FAX:0868-57-2476

HP: <http://liaj.or.jp/Okayama/>

お気軽にお問い合わせください♪



(公社) 中央畜産会からのお知らせ

謹賀新年

畜産映像情報

がんばる! 畜産!

畜産現場の“今”を30分の番組にしました!

映像を各種研修会、セミナーにご活用ください!

配信中の内容: 総集編 若き情熱! 全国和牛能力共進会
特別区/畜産DX特集 総集編養鶏・
養豚の今に迫る/コントラクターと連携
大分県高田牧場/他



◀スマートフォンからはこちら

▼パソコンからはこちらで検索

がんばる畜産



お問合せ: (公社) 中央畜産会 経営支援部 (情報) TEL03-6206-0846

謹 賀 新 年



中国支店 営業課

〒700-0826

岡山市北区磨屋町 9-18

TEL 086 (234) 6896

FAX 086 (212) 3786

久世粗飼料センター

〒719-3205

真庭市草加部 1810-5

TEL 0867 (42) 4061



「食」の安心は、安全な飼料から



JA西日本くみあい飼料株式会社

GPセンターの省人化・自動化は **Kyowa** のジープックロボシリーズにおまかせください

容器やダンボールに箱詰め
ジープックケーサ
PBR-380/400

プラスチックコンテナ、
平コン、ダンボール箱な
どの様々な容器に対応。
封緘機、製函機との組み合
わせて包装ラインの省人
化・省力化が図れます。

ロールインナーへの自動積み付け

**ジープック
ローダー**

DRL-001/002

棚板の自動開放機構を備えたロ
ボットシステム。重労働だった
人の手による積み付け作業を軽
減し、包装ラインの生産性向上
に貢献します。

容器の積み上げ、積み下し
ジープックパレタイザ
SPL-001
ジープックデパレタイザ
SDP-001

製品別・梱包仕様など、任
意で積みパターンの選択や
変更が可能。オプションで
パレットとコンテナ台車の
両方に対応します。

謹 賀 新 年

Kyowa CREATE THE PERFORMANCE

共和機械株式会社 TEL 0868-26-6600

鶏卵の洗浄機、選別包装システム、割卵システムのパイオニア

〒708-1115 岡山県津山市河面375 www.kyowa-machinery.co.jp

謹 賀 新 年



動物の健康は 人の健康につながる

- 動物用医薬品販売の全国ネットワークを駆使し、あらゆる動物の健康維持に貢献します。
- 安全な畜水産物の生産をサポートし、獣医療の発展と食の安全・安心に貢献します。

MPアグロ株式会社

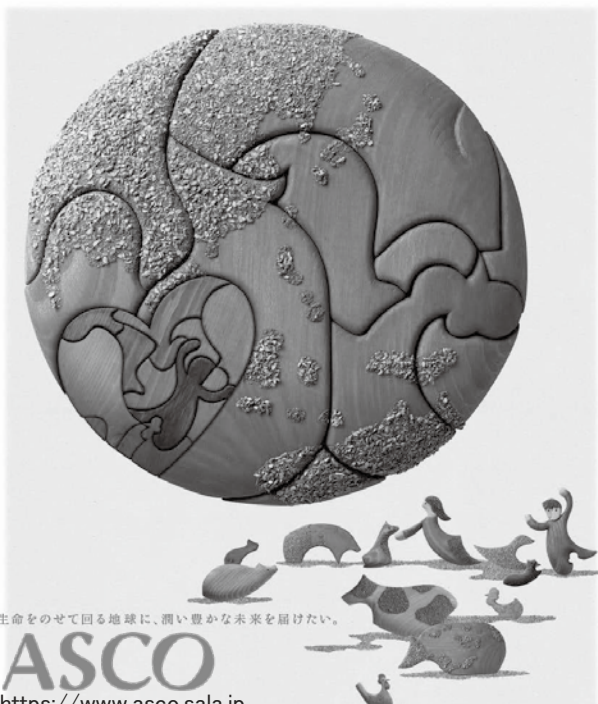
本社 〒061-1274 北海道北広島市大曲工業団地6丁目2番地13
TEL 011(376)3860 FAX 011(376)2600

岡山支店 〒709-2122 岡山市北区御津吉尾1-1 TEL 086-724-4880 FAX 086-724-4889
AHSC西日本 〒702-8032 岡山市南区福富中2丁目6-18 TEL 086-902-2200 FAX 086-264-2500
御津物流センター 〒709-2122 岡山市北区御津吉尾1-1 TEL 086-724-4816 FAX 086-724-4882
東京本部・札幌・旭川・函館・帯広・北見・釧路・青森・秋田・盛岡・山形・仙台・東京・北関東
大阪第一・大阪第二・兵庫・広島・山口・鳥取・島根・高松・徳島・松山・宇和島
福岡オフィス・福岡第一・福岡第二・熊本・宮崎・鹿児島・鹿屋
札幌物流センター・帯広物流センター・盛岡物流センター・関東物流センター



謹 賀 新 年

人と動物の健やかな共生環境づくりに貢献します



本 社

〒441-8021
愛知県豊橋市白河町100番地
TEL 0532-34-3821 FAX 0532-33-3611

東京本社

〒103-0027
東京都中央区日本橋1丁目16番地3号
日本橋木村ビル7階
TEL 03-6225-5790 FAX 03-6225-5791

営業所

- ・北海道支店
札幌
- ・東日本支店
前橋、松本、旭、茨城、栃木、東京
大宮、宮城、福島
- ・中日本支店
豊橋、安城、浜松、沼津、岐阜、名古屋
- ・西日本支店
広島、山口、米子、岡山、大阪、京都

謹 賀 新 年

動物用 カルシウム剤

ダービー

ダービーは貝化石の
微粉末であり貝化石には
カルシウムや各種ミネラルが
豊富に含まれています。
カルシウムの供給源として
搾乳牛や子牛にも
最適です。



おいしいよ〜♪



JYUCHIKU Co. Ltd. 株式会社ジュウチク

岡山市北区今保 99 番地 3

Tel.086-259-1230 Fax.086-259-1231

Email : jyuchiku@festa.ocn.ne.jp

謹 賀 新 年

健康な仔牛づくりへの
一歩目はこれから！



弊社では、四十年余り培ってきた醗酵技術を用
いることで、乳酸菌やその他の菌類を使用した良
質な醗酵飼料を、肉用・乳用を問わず、全ての
ステージの牛に対して提供しております。

また、弊社ではこれらの技術を利用したオーダー
品の設計や生産、飼料米の粉碎などの原料の
加工も承っております。

原料を持込での加工依頼や、御要望の数量の
多寡を問わず、まずはお気軽に御相談下さい。

醗酵飼料のパイオニア

フタバ飼料株式会社

〒709-0841 岡山県岡山市東区瀬戸町方富1057-1

TEL 086-953-0832 FAX 086-953-1870

E-mail : futabashiryo.co.jp

謹 賀 新 年

FOSS

乳・乳製品・飼料分析ソリューション



【BacSomatic™】

乳中の体細胞数・細菌数を同時に短時間で測定可能！

乳房炎、衛生状況のモニタリングや原料乳受け入れ現場でのスクリーニング検査の効率化を実現できます。

測定項目：細菌数(IBC、CFU)、体細胞数

測定対象：生乳



【MilkoScan™ Mars】 FT-IR乳成分分析装置

生乳成分を1分で測定する、コンパクトモデル！

生乳の品質管理、原料乳の標準化、製造管理の効率化を高い次元で支援します。

測定項目：脂肪、タンパク、乳糖、全固形、無脂固形、氷点(加水)

測定対象：生乳、製品乳



【NIRS™ DS2500F】 NIR分析装置

飼料、飼料原料の複数成分を1分で同時分析！

TMRセンターでの飼料設計、飼料品質の最適化を支援します。

測定項目：脂肪、タンパク、水分、灰分、スターチ、粗繊維など

測定対象：飼料、飼料原料、配合飼料

フォス・ジャパン株式会社

セールス・サービス拠点：札幌・大阪・福岡

TEL: 03-5962-4811 / Mail: info@foss.co.jp

ANALYTICS BEYOND MEASURE

謹 賀 新 年

ホンモノは、おいしい。

OHAYO

岡山県産 生乳100%使用

晴れの国
おかやま牛乳



©岡山県「ももっち」

岡山県産の牛乳を100% 使用した牛乳です。
岡山県下、各地域から集乳した生乳を
使用しました。



www.ohayo-milk.co.jp

オハヨー乳業株式会社

高知競馬開催案内(2024)

地方競馬の収益金の一部は国内の畜産振興に役立てられています。

1 月				2 月			
開催日	備 考			開催日	備 考		
1 月				17 水	○ ナイター		
2 火				18 木			
3 木				19 金			
4 木				20 土			
5 金				21 日	○ ナイター		
6 土				22 月			
7 日	○ ナイター			23 火	○ ナイター		
8 月	○ ナイター			24 水	○ ナイター		
9 火	○ ナイター			25 木			
10 水	○ ナイター			26 金			
11 木				27 土			
12 金				28 日	○ ナイター		
13 土				29 月			
14 日	○ ナイター			30 火	○ ナイター		
15 月				31 水	○ ナイター		
16 火	○ ナイター			ナイター(14:45~20:50)			
				1 木			
				2 金			
				3 土			
				4 日	○ ナイター		
				5 月			
				6 火	○ ナイター		
				7 水	○ ナイター		
				8 木			
				9 金			
				10 土			
				11 日	○ ナイター		
				12 月	○ ナイター		
				13 火			
				14 水	○ ナイター		
				15 木			
				16 金			
				ナイター(14:45~20:50)			

ホ ッ ト ニ ュ ー ス

丸山昭博・都々子夫妻が全国優良畜産経営管理技術発表会で農林水産大臣賞を受賞!

令和5年11月29日、令和5年度「全国優良畜産経営管理技術発表会」が開催されました。蒜山の丸山昭博氏が、「日本一のジャージー産地を支えたい〜仲間とともに地に足がついた経営の実践〜」と題して発表し、審査の結果、ジャージー酪農を始めたパイオニアで、飼料生産を行い粗飼料自給率はほぼ100%を達成している点などが評価され、受賞されました。



あとがき

ここ数年、DIYで家具を作る楽しみを覚えた。材料を正確に測って切断し、組み立てたつもりでも、どこかがずれている。同じものを何度か作るうちに、失敗した原因がわかり、やっと満足のいくものが出来る。昨今、こんな悠長な時間を与えてくれる時代ではなくなった。すぐに結果を求められる。時代は加速の一途だから、そのことを否定はしない。ただ、失敗から学ぶことは多い。自身の人生、失敗だらけの回り道だったが、今思えば実は一番近道だった気がしている。本会合併20年の節目、今年も道に迷いながら最適解を探す一年になりそうだ。(H.F)

岡山畜産便り 1月号(新春号)

第75巻 第1号(通巻708号)

令和5年12月26日発行

定価250円(消費税・送料含)

発行人 柴田範彦 編集人 藤原裕士

発行所 一般社団法人 岡山県畜産協会

〒700-0826 岡山市北区磨屋町9-18 岡山県農業会館5階

TEL 086-222-8575 FAX 086-234-6031

印刷所 ノーイン株式会社

謹 賀 新 年

生乳集荷の「安全・安心」な輸送業務に取り組んでおります。

株式会社 きびじ酪農運輸 代表取締役 笹野 英明

本 社 〒719-1156 総社市門田70-1 TEL(0866)93-8790

阿曾事務所 〒719-1103 総社市西阿曾前田193-4
TEL(0866)99-8300 FAX(0866)99-8301



岡山畜産だより

令和六年一月号(新春号)
(第七十五巻第1号通巻七〇八号)

令和5年12月26日発行

岡山市北区磨屋町九十八 岡山県農業会館
発行所 岡山県畜産協会

定価 一部 二五〇円(送料共)
年間 一五〇〇円(送料共)

岸化学グループ

ckp 株式会社 正和

謹 賀 新 年

代表取締役 岸 小三郎

岡 山 本 社 〒712-8055 岡山県倉敷市南畝1丁目13番1号

広島事業所 〒738-0513 広島県佐伯区湯来町大字伏谷今山10137番58

福山事業所 〒729-3102 広島県福山市新市町相方1089-19

鳥取事業所 〒680-0906 鳥取県鳥取市港町51番地

津山事業所 〒708-1544 岡山県久米郡美咲町周佐1377-4

たつの事業所 〒679-4116 兵庫県たつの市神岡町沢田字平岩ノ下1363番地

大村事業所 〒856-0009 長崎県大村市松原本町565番地13

TEL 086 (450) 3807

FAX 086 (450) 4008

TEL 0829 (40) 5177

FAX 0829 (40) 5178

TEL 0847 (54) 2007

FAX 0847 (54) 2008

TEL 0857 (50) 1736

FAX 0857 (50) 1738

TEL 0868 (62) 1232

FAX 0868 (62) 1233

TEL 0791 (64) 0080

FAX 0791 (64) 0081

TEL 0957 (46) 3800

FAX 0957 (46) 3824

取扱品目

死亡牛・死亡豚他の処理

有機性汚泥

廃食油

動植物性残渣

医療廃棄物

